

授業科目名： 線形代数学 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 河田 成人
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>現代数学や自然科学・社会科学を学修するために必要不可欠な線形代数学について、その基礎である数ベクトル空間、行列、行列式の基本的な取り扱いを学ぶ。更に、より抽象化された一般のベクトル空間の概念について学修する。</p> <p>[学修到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数ベクトル空間、行列および行列式の意味を理解し、連立1次方程式の解法に応用できる。 ・抽象的なベクトル空間、基底などについて概念を把握し、説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>まず、数ベクトルや行列の演算規則と行列式の計算方法や基本性質について説明する。これらをもとに、連立1次方程式の解法を通して、行列が持つ表現能力について説明する。更に、線形代数の応用範囲を大きく広げる一般のベクトル空間について解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：数ベクトル空間（実数ベクトル、空間、平面の方程式）</p> <p>第2回：数ベクトル空間（次元）</p> <p>第3回：行列の基本</p> <p>第4回：行列の積</p> <p>第5回：正方行列</p> <p>第6回：行列式の定義</p> <p>第7回：行列式の性質と逆行列</p> <p>第8回：行列式の幾何学的意味と外積</p> <p>第9回：前半のまとめ</p> <p>第10回：連立1次方程式と行列</p> <p>第11回：行列のランク</p> <p>第12回：正方行列と逆行列</p> <p>第13回：ベクトル空間の定義と例</p> <p>第14回：部分空間、1次独立と基底</p> <p>第15回：基底の性質と変換</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

初歩からの線形代数（長崎生光監修・牛瀧文宏編集、講談社）

参考書・参考資料等

授業で適宜資料を配布する。

学生に対する評価

数ベクトル空間、行列および行列式の意味を理解して、それらの性質や演算方法を修得しているか、また、連立1次方程式の求解などへの応用ができるか、抽象的なベクトル空間、基底などについて概念を理解し数ベクトル空間と同様に取り扱うことができるかを評価する。

中間試験（40%）、定期試験（60%）

授業科目名： 線形代数学Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 河田 成人
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>線形代数学は現代数学の基礎であるだけでなく、自然科学・社会科学を学修するために必要不可欠な分野である。この授業では、ベクトル空間の線形写像にまつわる概念と基本性質に基づいて、ベクトル空間や行列に関する基礎理論を理解し計算手法を修得する。</p> <p>[学修到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベクトル空間の線形写像をその表現行列で記述し問題を解決できる。 ・行列の固有値を求めて行列を対角化し、2次形式や2次曲線への応用が図れる。 			
<p>授業の概要</p> <p>まず、ベクトル空間の線形写像とその表現行列について解説する。次に線形写像の固有値・固有ベクトルについて説明し、行列の対角化に関する問題を考察する。さらに、2次形式や2次曲線への応用等についても講義する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：数ベクトル空間の線形写像</p> <p>第2回：座標平面や座標空間の線形変換</p> <p>第3回：線形写像の表現行列と基本性質</p> <p>第4回：線形写像の固有値・固有ベクトル</p> <p>第5回：行列の対角化可能性</p> <p>第6回：一般のベクトル空間の線形写像</p> <p>第7回：一般の線形写像の固有値と固有ベクトル</p> <p>第8回：前半のまとめ</p> <p>第9回：内積、直交行列</p> <p>第10回：直交変換と直交行列</p> <p>第11回：Schmidtの直交化法</p> <p>第12回：行列の多項式に関する話題</p> <p>第13回：実対称行列の対角化</p> <p>第14回：2次形式、2次曲線</p> <p>第15回：後半のまとめ</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

初歩からの線形代数（長崎生光監修・牛瀧文宏編集、講談社）

参考書・参考資料等

授業で適宜資料を配布する。

学生に対する評価

ベクトル空間の線形写像を理解して、行列の固有値・固有ベクトルを求めて行列を対角化し、2次形式・2次曲線に関する問題に応用できることを評価のポイントとする。

中間試験（40％）、定期試験（60％）

授業科目名： 代数学 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 河田 成人
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>代数学のみならず現代数学全体において基本概念とされている「群」の基礎的な理論を理解する。また、抽象化された代数概念に慣れ親しみ、さまざまな場面で現れる「群」を認識して取り扱えるようになることを目標とする。</p> <p>[学修到達目標]</p> <p>群に関して、特にアーベル群に関して習熟し、有限生成アーベル群の構造を記述できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>群について、群準同型写像・正規部分群・剰余群などの基本的な項目について解説し、有限生成アーベルの基本定理を巡回群や直積などの概念を用いて説明する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：群の定義と例</p> <p>第2回：部分群</p> <p>第3回：正規部分群と剰余群</p> <p>第4回：群準同型写像と同型定理</p> <p>第5回：直積</p> <p>第6回：アーベル群</p> <p>第7回：有限生成アーベル群の基本定理</p> <p>第8回：まとめと中テスト</p>			
<p>テキスト</p> <p>代数学I 群と環（桂利行著、東京大学出版）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業で適宜資料を配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>群に関する基礎理論を理解しているか評価する。</p> <p>試験（100%）</p>			

授業科目名： 代数学演習 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 河田 成人
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>代数学のみならず現代数学全体において基本概念とされている「群」の基礎的な理論を理解する。また、抽象化された代数概念に慣れ親しみ、さまざまな場面で現れる「群」を認識して取り扱えるようになることを目標とする。</p> <p>[学修到達目標]</p> <p>群に関して、特にアーベル群に関して習熟し、有限生成アーベル群の構造を記述できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>群について、群準同型写像・正規部分群・剰余群などの基本的な項目を理解し、有限生成アーベルの基本定理を巡回群や直積などの概念を修得するための演習を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：群の定義と例を理解するための演習</p> <p>第2回：部分群を理解するための演習</p> <p>第3回：正規部分群と剰余群を理解するための演習</p> <p>第4回：群準同型写像と同型定理を理解するための演習</p> <p>第5回：直積を理解するための演習</p> <p>第6回：アーベル群を理解するための演習</p> <p>第7回：有限生成アーベル群の基本定理を理解するための演習</p> <p>第8回：まとめと総合演習</p>			
<p>テキスト</p> <p>代数学I 群と環（桂利行著、東京大学出版）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業で演習問題用のプリントを配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>群に関する基本的な事項を理解しているか評価する。</p> <p>授業における演習（50%）、小テスト（50%）</p>			

授業科目名： 代数学Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 河田 成人
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>代数学のみならず現代数学全体において基本概念とされている「環」の基礎的な理論を理解する。また、抽象化された代数概念に慣れ親しみ、さまざまな場面で現れる「環」を認識して取り扱えるようになることを目標とする。</p> <p>[学修到達目標]</p> <p>環について、イデアルや剰余環という概念を利用して環の性質を説明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>環について、群論の基本事項を踏まえた上で、多項式環を題材にして、イデアルや剰余環などの基本項目を解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：環の定義と例</p> <p>第2回：イデアルと剰余環</p> <p>第3回：ユークリッド整域・単項イデアル整域</p> <p>第4回：環同型写像と同型定理</p> <p>第5回：素イデアルと極大イデアル</p> <p>第6回：商環・商体</p> <p>第7回：一意分解整域と多項式環</p> <p>第8回：まとめと中テスト</p>			
<p>テキスト</p> <p>代数学I 群と環（桂利行著、東京大学出版）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業で適宜資料を配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>環に関する基礎理論を理解しているか評価する。</p> <p>試験（100%）</p>			

授業科目名： 代数学演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 河田 成人
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>代数学のみならず現代数学全体において基本概念とされている「環」の基礎的な理論を理解する。また、抽象化された代数概念に慣れ親しみ、さまざまな場面で現れる「環」を認識して取り扱えるようになることを目標とする。</p> <p>[学修到達目標]</p> <p>環について、イデアルや剰余環という概念を利用して環の性質を説明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>環について、群論の基本事項を踏まえた上で、多項式環を題材にして、イデアルや剰余環などの基本項目を理解するための演習を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：環の定義と例を理解するための演習</p> <p>第2回：イデアルと剰余環を理解するための演習</p> <p>第3回：ユークリッド整域・単項イデアル整域を理解するための演習</p> <p>第4回：環潤同型写像と同型定理を理解するための演習</p> <p>第5回：素イデアルと極大イデアルを理解するための演習</p> <p>第6回：商環・商体を理解するための演習</p> <p>第7回：一意分解整域や多項式環を理解するための演習</p> <p>第8回：まとめと総合演習</p>			
<p>テキスト</p> <p>代数学I 群と環（桂利行著、東京大学出版）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業で演習問題用のプリントを配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>環に関する基本的な事項を理解しているか評価する。</p> <p>授業における演習（50%）、小テスト（50%）</p>			

授業科目名： 代数学Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 河田 成人 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>線形代数学におけるベクトル空間のアイデアを一般化すると、環が作用する加群（環上の加群）の概念に至る。環上の加群を研究すれば、元来の環自身が備え持つ代数構造の解明につながる表現論が展開される。この授業では、環上の加群の基礎理論を理解することを目標とする。</p> <p>[学修到達目標]</p> <p>整数環や多項式環が作用する加群について習熟し、その構造を自由加群やねじれ加群などの概念を利用して記述できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>環が作用する加群に関して、部分加群や剰余加群の概念にまつわる基本事項を説明し、特に整数環や多項式環を題材にして、単項イデアル整域が作用する有限生成加群の構造を解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：環が作用する加群の定義と例</p> <p>第2回：アルティン環とネーター環</p> <p>第3回：加群の直和</p> <p>第4回：単因子論</p> <p>第5回：自由加群，ねじれ加群</p> <p>第6回：整数環上の有限生成加群</p> <p>第7回：単項イデアル整域上の有限生成加群の構造</p> <p>第8回：まとめと中テスト</p>			
<p>テキスト</p> <p>代数学II 環上の加群（桂利行著、東京大学出版）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業で適宜資料を配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>環が作用する加群に関する基本的な事項の理解を評価する。</p> <p>試験（100%）</p>			

授業科目名： 代数学演習Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 河田 成人
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>線形代数学におけるベクトル空間のアイデアを一般化すると、環が作用する加群（環上の加群）の概念に至る。環上の加群を研究すれば、元来の環自身が備え持つ代数構造の解明につながる表現論が展開される。この授業では、環上の加群の基礎理論を理解することを目標とする。</p> <p>[学修到達目標]</p> <p>整数環や多項式環が作用する加群について習熟し、その構造を自由加群やねじれ加群などの概念を利用して記述できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>環が作用する加群に関して、部分加群や剰余加群の概念にまつわる基本事項を修得し、特に、単項イデアル整域が作用する有限生成加群の構造を理解するための演習を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：環が作用する加群の定義と例を理解するための演習</p> <p>第2回：アルティン環とネーター環を理解するための演習</p> <p>第3回：加群の直和を理解するための演習</p> <p>第4回：単因子論を理解するための演習</p> <p>第5回：自由加群、ねじれ加群を理解するための演習</p> <p>第6回：整数環上の有限生成加群を理解するための演習</p> <p>第7回：単項イデアル整域上の有限生成加群の構造を理解するための演習</p> <p>第8回：まとめと総合演習</p>			
<p>テキスト</p> <p>代数学II 環上の加群（桂利行著、東京大学出版）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業で演習問題用のプリントを配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>環が作用する加群に関する基本的な事項を理解しているか評価する。</p> <p>授業における演習（50%）、小テスト（50%）</p>			

授業科目名： 離散数学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 須田 庄 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的な事項 ・代数学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、グラフ理論の基本的な概念の習得と主要な定理の理解を目的とする。特に、グラフを用いて記述される一筆書きの定理や地図の塗分けに関する四色定理といった平面グラフの理解、およびグラフに付随する隣接行列の扱い方を学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>それぞれの講義でグラフの重要な概念をいくつか紹介し、関連する基本的な定理を理解する。概念・定理を述べる際にはできるだけ具体的な例とともに紹介し、問題演習を適宜入れる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：グラフの定義・グラフの例（道・閉路）・同型・部分グラフ 第2回：次数・握手の補題、二部グラフの完全マッチング 第3回：二部グラフと閉路による特徴づけ 第4回：一筆書きの定理・ハミルトングラフ 第5回：平面グラフ・オイラーの多面体定理・地図の塗分けと四色定理 第6回：グラフの隣接行列・グラフの隣接行列のべき乗と閉路、三角形の個数 第7回：グラフの隣接行列の固有値 第8回：まとめと確認テスト</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>グラフ理論序説 仁平政一・西尾義典著 プレアデス社 やさしい線形代数の応用 仁平政一著 現代数学社</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業中の確認テスト（20パーセント）・レポート（80パーセント）</p>			

授業科目名： 数学序論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 花木 良
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・幾何学		
授業のテーマ及び到達目標 集合論に関する基礎概念の理解を目的とする。			
授業の概要 現代数学の礎である集合論の基礎として、集合の演算、写像、同値関係、濃度について、具体例を豊富に示し、伝える。			
授業計画 第1回：集合論とは 第2回：集合 第3回：集合の演算 第4回：写像の概念 第5回：単射、全射、全単射 第6回：同値関係の定義 第7回：同値関係の色々な例 第8回：集合の濃度の定義 第9回：集合の濃度の色々な例 第10回：ベルンシュタインの定理 第11回：濃度の大小の定義 第12回：濃度の大小の色々な例 第13回：集合論や濃度に関する話題 第14回：問題演習 第15回：講義のまとめ			
テキスト： 集合・位相 基礎から応用まで 佐久間一浩著 共立出版株式会社			
参考書・参考資料等： 集合と位相 鎌田正良著 近代科学社			
学生に対する評価 課題40%，小テスト60%			

授業科目名： 幾何学I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 鎌田 直子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・幾何学		
授業のテーマ及び到達目標 位相幾何学の入り口である距離空間と関連する基礎概念の理解を目的とする。			
授業の概要 位相幾何学は柔らかい幾何学と呼ばれ現代数学の一つで、オイラーが解決した18世紀のケーニヒスベルクの問題が起源と言われている。位相幾何学は数学以外の現代科学でも応用されている。距離空間と位相空間は位相幾何学の入り口である。本講義では位相空間への一般化を目標に距離空間の概念を導入する。さらに距離空間の開集合、閉集合について講義する。			
授業計画 第1回：距離空間 第2回：距離空間の例 第3回：点列の収束 第4回：完備性 第5回：開集合と閉集合 第6回： ε -近傍、触点、閉包 第7回：連続関数、連続写像 第8回：まとめと中テスト			
テキスト 集合・位相 基礎から応用まで 佐久間一浩著 共立出版株式会社			
参考書・参考資料等 集合と位相 鎌田正良著 近代科学社			
学生に対する評価 テスト100%			

授業科目名： 幾何学演習I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 鎌田 直子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・幾何学		
授業のテーマ及び到達目標 位相幾何学の入り口である距離空間と関連する基礎概念の理解を目的とする。			
授業の概要 位相幾何学は柔らかい幾何学と呼ばれ現代数学の一つで、オイラーが解決した18世紀のケーニヒスベルクの問題が起源と言われている。位相幾何学は数学以外の現代科学でも応用されている。距離空間と位相空間は位相幾何学の入り口である。本講義では幾何学Iで学んだ距離空間についての演習を行う。			
授業計画 第1回：距離空間の演習 第2回：距離空間の例の演習 第3回：点列の収束の演習 第4回：完備性の演習 第5回：開集合と閉集合の演習 第6回： ε -近傍、触点、閉包の演習 第7回：連続関数、連続写像の演習の演習 第8回：総合演習			
テキスト 集合・位相 基礎から応用まで 佐久間一浩著 共立出版株式会社			
参考書・参考資料等 集合と位相 鎌田正良著 近代科学社			
学生に対する評価 授業における問題演習50% 小テスト50%			

授業科目名： 幾何学II	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 鎌田 直子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・幾何学		
授業のテーマ及び到達目標 位相幾何学の入り口である位相空間および関連する基礎概念の理解を目的とする。			
授業の概要 位相幾何学は柔らかい幾何学と呼ばれ現代数学の一つで、オイラーが解決した18世紀のケーニヒスベルクの問題が起源と言われている。位相幾何学は数学以外の現代科学でも応用されている。距離空間と位相空間は位相幾何学の入り口である。本講義では位相空間を導入して連結性、コンパクト性などの性質を学ぶ。			
授業計画 第1回：位相空間 第2回：連続写像と同相写像 第3回：連結 第4回：弧状連結 第5回：コンパクト性 第6回：ハウスドルフ空間 第7回：コンパクト空間の性質 第8回：まとめと中テスト			
テキスト 集合・位相 基礎から応用まで 佐久間一浩著 共立出版株式会社			
参考書・参考資料等 集合と位相 鎌田正良著 近代科学社			
学生に対する評価 テスト100%			

授業科目名： 幾何学演習II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 鎌田 直子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・幾何学		
授業のテーマ及び到達目標 位相幾何学の入り口である位相空間および関連する基礎概念の理解を目的とする。			
授業の概要 位相幾何学は柔らかい幾何学と呼ばれ現代数学の一つで、オイラーが解決した18世紀のケーニヒスベルクの問題が起源と言われている。位相幾何学は数学以外の現代科学でも応用されている。距離空間と位相空間は位相幾何学の入り口である。本講義では幾何学IIで学んだ位相空間についての演習を行う。			
授業計画 第1回：位相空間の演習 第2回：連続写像と同相写像の演習 第3回：連結の演習 第4回：弧状連結の演習 第5回：コンパクト性の演習 第6回：ハウスドルフ空間の演習 第7回：コンパクト空間の性質の演習 第8回：総合演習			
テキスト 集合・位相 基礎から応用まで 佐久間一浩著 共立出版株式会社			
参考書・参考資料等 集合と位相 鎌田正良著 近代科学社			
学生に対する評価 授業における問題演習50% 小テスト50%			

授業科目名： 幾何学III	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 鎌田 直子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・幾何学		
授業のテーマ及び到達目標 本講義ではホモロジー群の概念を理解することを目標とする。グラフのホモロジー群などの位相不変量を計算できる。			
授業の概要 位相空間が同相であるかどうか、判定する道具を位相不変量という。その位相不変量の1つにホモロジー群がある。ホモロジーに関する位相不変量であるオイラー標数についても講義する。			
授業計画 第1回：Z自由加群 第2回：グラフ 第3回：複体のホモロジー群 第4回：グラフの道 第5回：同相 第6回：レトラクション 第7回：オイラー標数 第8回：まとめと中テスト			
テキスト 計算で身につくトポロジー 阿原一志著 共立出版社			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 テスト100%			

授業科目名： 幾何学演習III	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 鎌田 直子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・幾何学		
授業のテーマ及び到達目標 本講義ではホモロジーの概念を理解することを目標とする。グラフのホモロジー群などの位相不変量を計算できる。			
授業の概要 位相空間が同相であるかどうか、判定する道具を位相不変量という。その位相不変量の1つにホモロジー群がある。ホモロジー群の性質を理解しグラフのホモロジー群や関連した位相不変量に関する演習を行う。			
授業計画 第1回： Z 自由加群の演習 第2回：グラフの演習 第3回：複体のホモロジー群の演習 第4回：グラフの道の演習 第5回：同相の演習 第6回：レトラクションの演習 第7回：オイラー標数の演習 第8回：総合演習			
テキスト 計算で身につくトポロジー 阿原一志著 共立出版社			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 授業における問題演習50% 小テスト50%			

授業科目名： 解析学基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐久間 紀佳
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		
授業のテーマ及び到達目標 変数分離型の常微分方程式、1変数関数の微分積分の内容を深めるとともに、多変数関数の微分積分について学ぶ。具体例を扱えるようになることを目指す。			
授業の概要 前半は変数分離型の常微分方程式、1変数関数の微分積分について、逆三角関数などを扱いながらロピタルの定理やテーラーの定理などを具体例とともに解説する。種々の初等関数の積分と広義積分について学ぶ。後半は多変数関数の微分積分を扱う。多変数関数の極値を求める技法を学ぶ。重積分とその応用としてガウス積分、ガンマ関数、ベータ関数を学ぶ。			
授業計画 第1回：1階の微分方程式（変数分離形） 第2回：連続関数、逆三角関数 第3回：関数の微分、平均値の定理 第4回：高次の導関数、テーラーの定理 第5回：積分の計算 第6回：広義積分 第7回：前半の総まとめ 第8回：多変数の関数 第9回：合成関数の微分 第10回：高次の偏導関数とテーラーの定理 第11回：陰関数の定理とラグランジュの未定乗数法 第12回：2変数関数の極値問題 第13回：積分の定義と重積分 第14回：重積分の変数変換 第15回：ガンマ関数とベータ関数 定期試験			
テキスト「入門微分積分」(三宅敏恒著、培風館)			
参考書・参考資料等「微分積分の演習」(三宅敏恒著、培風館)			
学生に対する評価 微分積分学に関する基本事項を理解し、正確に計算ができるかを評価する。			

総まとめ演習 40%、定期試験 60%

授業科目名： 解析学 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 佐久間 紀佳
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 解析学		
授業のテーマ及び到達目標 ϵ - N 論法、 ϵ - δ 論法を使って極限に関する議論と実数の連続公理の同値命題を導出すること、関数の連続性をテーマとする。実数の性質、連続関数の性質を正確に理解することを到達目標にする。			
授業の概要 ϵ - N 論法、 ϵ - δ 論法の使った実数の性質についての証明を解説する。その証明過程を理解するとともに各命題間の論理関係を理解する。また、連続関数の基本的性質を示すワイエルシュトラスの定理、中間値の定理の証明を理解する。			
授業計画 第1回：数列の極限（その1） ϵ - N 論法、アルキメデスの原理 第2回：数列の極限（その2）数列の有界性、数列の積、商の極限 第3回：連続の公理（その1）連続の公理とアルキメデスの原理、区間縮小法 第4回：連続の公理（その2）コーシー列 第5回：関数の極限 閉包の概念、 ϵ - δ 論法 第6回：関数の連続性とワイエルシュトラスの定理：連続関数の定義 第7回：中間値の定理とその証明 第8回：まとめと中テスト			
テキスト「手を動かしてまなぶ ϵ - δ 論法」(藤岡敦著、裳華房)			
参考書・参考資料等 「解析入門I」(杉浦光夫著、東京大学出版会)			
学生に対する評価 毎回の授業中の確認テスト・レポート(20%)と1回の中テスト(80%)			

授業科目名： 解析学演習I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 佐久間 紀佳
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ϵ-N論法、ϵ-δ論法をもとにした極限の扱い方を具体的な例に対して正確に用いることができるようになることをテーマとする。具体的な命題をϵ-N論法、ϵ-δ論法を用いて厳密に証明できるようになることを到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ϵ-N論法、ϵ-δ論法、はさみうちの原理、追い出し原理、上限などを用いて具体的な解析学の問題を解く。その証明過程を理解するとともに数学的に正しい記述ができるように演習を行う。また逆関数について、正確に扱えるようになることを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：数列の極限（その1）ϵ-N論法の使い方、はさみうちの原理の演習</p> <p>第2回：数列の極限（その2）追い出し原理の演習</p> <p>第3回：連続の公理（その1）ボルツァーノ・ワイエルストラスの定理</p> <p>第4回：連続の公理（その2）上限を使う演習</p> <p>第5回：関数の極限の演習 ϵ-δ論法を使う演習</p> <p>第6回：関数の連続性とワイエルシュトラスの定理の演習 連続関数であることの証明演習</p> <p>第7回：逆関数とその連続性</p> <p>第8回：まとめと小テスト</p>			
テキスト「手を動かしてまなぶ ϵ - δ 論法」(藤岡敦著、裳華房)			
参考書・参考資料等 「解析入門I」(杉浦光夫著、東京大学出版会)			
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回の授業中の発表(80%)と小テスト(20%)</p>			

授業科目名： 解析学II	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 佐久間 紀佳
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		
授業のテーマ及び到達目標 級数、関数項級数の扱いと微分を理解することをテーマとする。具体的なべき級数の一様収束性を示し、項別微分を運用できるようになることを目指す。			
授業の概要 ダランベールの判定法などの級数の収束発散の判定方法を示すことから出発し、関数項級数の概念を導入する。そしてその収束として各点収束と一様収束があることを解説し、一様収束だとどのような命題が成り立つかを解説する。最後に三角関数などのべき級数による表示を解説する。			
授業計画 第1回：級数 第2回：関数項級数とべき級数 第3回：上極限と下極限 第4回：一様収束 第5回：指数関数と三角関数 第6回：微分に関する基本事項 第7回：べき級数の項別微分 第8回：まとめと中テスト			
テキスト「手を動かしてまなぶ ϵ - δ 論法」(藤岡敦著、裳華房)			
参考書・参考資料等 「解析入門I」(杉浦光夫著、東京大学出版会)			
学生に対する評価 毎回の授業中の確認テスト・レポート(20%)と1回の中テスト(80%)			

授業科目名： 解析学演習II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 佐久間 紀佳
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>級数、関数項級数の例を扱いダランベールの判定法、コーシーの判定法をベースとした議論および関数のべき級数表示を求めることをテーマとする。具体的なべき級数の一様収束性を示したり、項別微分を運用できるようになることを到達目標にする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ダランベールの判定法、コーシーの判定法を理解し、それをベースに収束半径を求める方法を演習する。また上極限などの場合にも同じ原理があることを演習する。ワイエルストラスのM判定法、項別微分を用いて具体的なべき級数を扱う演習をする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ダランベールの判定法を用いる演習 第2回：コーシーの判定法を用いる演習 第3回：収束半径を求める演習 第4回：一般化ダランベールの判定法を用いる演習 第5回：ワイエルストラスのM判定法を用いる演習 第6回：微分に関する基本事項の復習 第7回：べき級数の項別微分を用いる演習 第8回：逆三角関数のべき級数表示を求める演習</p>			
テキスト「手を動かしてまなぶ $\epsilon - \delta$ 論法」(藤岡敦著、裳華房)			
参考書・参考資料等 「解析入門I」(杉浦光夫著、東京大学出版会)			
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回の授業中の発表(80%)と小テスト(20%)</p>			

授業科目名： 解析学III	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 佐久間 紀佳
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		
授業のテーマ及び到達目標 リーマン積分の定義を理解し、その諸性質を示すことおよびリーマン積分の応用を理解することをテーマとする。可積分条件を用いてリーマン積分可能性を示せることを到達目標とする。			
授業の概要 リーマン積分の定義を理解し、可積分条件を示す。それをもとに有界閉区間上の連続関数はリーマン可積分であることを示す。これをベースに広義積分、曲線の長さを議論する。			
授業計画 第1回：リーマン積分の定義と基本的性質 第2回：可積分条件（その1）ダルブーの定理 第3回：可積分条件（その2）単調関数のリーマン可積分性 第4回：連続関数の一様連続性とリーマン積分 第5回：項別積分と項別微分 第6回：広義積分 第7回：曲線の長さ 第8回：まとめと中テスト			
テキスト「手を動かしてまなぶ $\epsilon - \delta$ 論法」(藤岡敦著、裳華房)			
参考書・参考資料等 「解析入門I」(杉浦光夫著、東京大学出版会)			
学生に対する評価 毎回の授業中の確認テスト・レポート(20%)と1回の中テスト(80%)			

授業科目名： 解析学演習III	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 佐久間 紀佳
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		
授業のテーマ及び到達目標 リーマン積分の定義を扱えるようになること、項別積分を運用できるようになること、ランダウのラージオー、広義積分の収束発散をテーマとする。簡単な関数を用いてリーマン積分の定義自体からリーマン可積分であることを示すことや具体的な広義積分の収束発散判定ができるようになることを目指す。			
授業の概要 リーマン積分の定義から具体的な関数のリーマン可積分性を議論する演習を行う。不定積分をあらためて再考する演習を行う。ランダウのラージオーを導入し、これを使う演習、広義積分収束発散の演習をする。			
授業計画 第1回：リーマン積分の定義からの求積の演習 第2回：リーマン可積分でないことの証明の演習 第3回：リーマン可積分であることの証明の演習 第4回：不定積分の演習 第5回：項別積分と項別微分とベキ級数の演習 第6回：ランダウのラージオーの扱い方の演習 第7回：広義積分の収束発散判定の演習 第8回：まとめと小テスト			
テキスト「手を動かしてまなぶ $\epsilon - \delta$ 論法」(藤岡敦著、裳華房)			
参考書・参考資料等 「解析入門I」(杉浦光夫著、東京大学出版会)			
学生に対する評価 毎回の授業中の発表(80%)と小テスト(20%)			

授業科目名： 複素関数論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西尾 昌治 担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的な事項 ・解析学		
授業のテーマ及び到達目標 複素数変数の複素数値関数に関する微分積分の取り扱いを理解する。			
授業の概要 複素微分可能性、コーシー・リーマン方程式、冪級数展開、積分可能性が互いに関連し合っていることを具体的な初等関数を通して学んだ後、孤立特異点についての理解を深める。			
授業計画 第1回：複素数 第2回：複素微分 第3回：コーシー・リーマン方程式 第4回：初等関数 第5回：整級数 第6回：複素積分 第7回：コーシーの積分定理 第8回：コーシーの積分公式 第9回：テーラー展開 第10回：平均値の性質 第11回：最大値の原理 第12回：ローラン展開 第13回：孤立特異点 第14回：留数定理 第15回：定積分への応用 定期試験			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 相川弘明「複素関数入門(共立出版)」，今吉洋一「複素関数概説(サイエンス社)」，野口潤次郎「複素解析概論(裳華房)」など			
学生に対する評価			

定期試験・レポート課題などにより総合的に評価する。

授業科目名：情報数学A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中 豪 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>複雑な解析対象を基本的な要素に分解して考えると見通しがよくなることが多い。フーリエ解析は、複雑な信号（関数）を基本的な要素（三角関数）に分解して考えるものである。本授業では、手計算と計算機演習を通してフーリエ解析の考え方を理解し、さまざまな関数についてフーリエ級数・変換が計算できるようになることを目標とする。</p> <p>[学修到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フーリエ級数の定義と性質を理解し、具体的な関数のフーリエ級数を計算できる。 ・フーリエ変換の定義と性質を理解し、具体的な関数のフーリエ変換を計算できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>第1～9回では周期関数に対するフーリエ級数を扱い、フーリエ解析の考え方を理解する。まず、いくつかの関数について具体的にフーリエ級数を求めることに加え、計算機を用いて関数のグラフを描画することで、フーリエ級数展開のイメージをつかむ。その後、フーリエ級数の性質（収束性や最良近似問題との関係など）について学ぶ。第10～14回では、非周期関数に対するフーリエ変換について学ぶ。特に、畳み込み定理（第13回）とその実例（第14回）の理解は本授業の山場である。最後に一般化フーリエ級数を学び、一つ高い視点からフーリエ解析を理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：周期関数、フーリエ級数</p> <p>第2回：さまざまな関数のフーリエ級数</p> <p>第3回：関数のグラフの描画</p> <p>第4回：フーリエ正弦展開とフーリエ余弦展開、フーリエ級数の性質1（フーリエ級数の収束性）</p> <p>第5回：フーリエ級数の性質2（フーリエ級数と最良近似問題・ベクトル空間）</p> <p>第6回：フーリエ級数の性質3（ベッセルの不等式、パーセバルの等式）</p> <p>第7回：フーリエ級数の性質4（フーリエ係数の最終性）</p> <p>第8回：前半の総まとめ</p> <p>第9回：一般の周期関数に対するフーリエ級数、複素フーリエ級数</p> <p>第10回：非周期関数、フーリエ変換</p> <p>第11回：さまざまな関数のフーリエ変換</p> <p>第12回：ディラックのデルタ関数</p> <p>第13回：フーリエ変換の性質1（畳み込み定理）</p>			

第14回：フーリエ変換の性質2（畳み込み演算の実例）

第15回：一般化フーリエ級数

定期試験

テキスト

フーリエ解析（理工系の数学入門コース 新装版）（大石進一著、岩波書店）

参考書・参考資料等

フーリエ解析入門 第2版（谷川明夫著、共立出版）

学生に対する評価

中間試験（40%）、期末試験（60%）

授業科目名：統計学B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木 善幸 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		
授業のテーマ及び到達目標 1次元・2次元データのまとめ方を理解する。 統計的推測の基礎となる確率分布を理解する。 統計的推測の考え方や実際のやり方を理解する。			
授業の概要 第1回から第3回は記述統計学としてデータの効果的なまとめ方について解説する。第4回から第10回でさまざまな確率分布について解説し、第11回から第15回でいろいろな状況に応じた推定・検定について解説する。毎回いくつかの問題を学生自身が解く時間を設け、理解を深める。			
授業計画 第1回：データをまとめる-1次元 第2回：データをまとめる-2次元-相関 第3回：データをまとめる-2次元-回帰 第4回：事象と確率 第5回：条件付き確率と独立 第6回：確率変数 第7回：確率分布-離散型 第8回：確率分布-連続型 第9回：極限定理 第10回：統計量 第11回：点推定 第12回：区間推定 第13回：検定 第14回：分布比較 第15回：分割表 定期試験			
テキスト 東京大学教養学部統計学教室編「統計学入門」東京大学出版会			
参考書・参考資料等 授業スライドのpdfファイル			
学生に対する評価			

授業の最後に行う小テスト (20%) 、定期試験 (80%)

授業科目名： 確率論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 佐久間 紀佳
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		
授業のテーマ及び到達目標 測度論に基づいた確率論を学ぶことをテーマとする。測度論的確率論により、簡単な確率モデルが記述できるようになることを目標にする。			
授業の概要 確率空間を導入し、その上の可測関数として確率変数を導入する。その上で積分を定義し、期待値を導入する。それをもとに単調収束定理、ルベーグの収束定理を学ぶ。			
授業計画 第1回：確率空間の定義 第2回：確率空間の例 第3回：確率変数 第4回：確率変数の期待値 第5回：単調収束定理 第6回：ルベーグの優収束定理 第7回：収束のモード 第8回：まとめと演習			
テキスト「はじめての確率論 測度から確率へ」(佐藤坦著、共立出版)			
参考書・参考資料等 「確率論」(伊藤清著、岩波書店)			
学生に対する評価 毎回の授業中の確認テスト・レポート(35%)と1回の中テスト(65%)			

授業科目名： 応用統計学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木 良一
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>応用統計学は文理問わず様々な分野で利用されている。応用統計学で用いる手法の多くは、特定の分野のみに使用されるわけではなく様々な分野を貫いている。そこで本科目では、比較的よく使用される応用統計学における基礎的な分析手法について学ぶ。さらに、数理的な理論を学ぶと同時に、実際にRやPython等のよく使われる言語によるプログラミングも行なうことで、実践的な能力の向上を目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>応用統計学は、データサイエンス、公的統計、計量ファイナンス、計量経済学、生物学、医学、教育学、品質管理など様々な分野で必要とされている。本科目では、平均値比較、分散分析、回帰分析などの統計学手法の基礎を学ぶとともに、実際の社会の中で、解析手法がどのように応用されているのかを学ぶ。特に、講義では理論のみならず、RやPython等を用いたPCを使った実習・演習を通して実践力を身につけることを意図している。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 応用統計学入門</p> <p>第2回 確率統計の基礎</p> <p>第3回 統計検定の基礎</p> <p>第4回 平均値比較の検定：分散既知のケース</p> <p>第5回 平均値比較の検定：分散未知のケース</p> <p>第6回 分割表の検定</p> <p>第7回 線型回帰モデル：線型回帰モデルと最小二乗法</p> <p>第8回 線型回帰モデル：点推定</p> <p>第9回 線型回帰モデル：仮設検定</p> <p>第10回 重回帰分析</p> <p>第11回 ロジスティック回帰</p> <p>第12回 分散分析</p> <p>第13回 主成分分析</p> <p>第14回 統計的学習の基礎</p> <p>第15回 統計的学習の応用</p>			

テキスト

特に指定しないが、担当教員が作成した資料を配布する。

参考書・参考資料等

- ・金森敬文『Pythonで学ぶ統計的機械学習』オーム社，2018.
- ・辻真吾，矢吹太朗『ゼロからはじめるデータサイエンス入門 R・Python 一挙両得』講談社，2021 .
- ・林賢一『R で学ぶ統計的データ解析』講談社，2020.
- ・伏見 正則，逆瀬川浩孝『Rで学ぶ統計解析』朝倉書店，2012.
- ・Larry Wasserman, All of Statistics: A Concise Course in Statistical Inference, Springer, 2004.
- ・Stanley H. Chan, Introduction to Probability for Data Science, Michigan Publishing, 2021.
- ・Kevin P. Murphy, Probabilistic Machine Learning: An Introduction, The MIT Press, 2022.

その他、講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート・課題60%、授業への取り組み姿勢（授業態度、課題への取り組み姿勢）40%

授業科目名： 情報数学B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中村 篤
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1948年に発表された Claude E. Shannon の論文 “A Mathematical Theory of Communication” をその源流とし、「情報」というつかみどころのないものの「価値」を定量的に取り扱うことを可能とする学問分野であり、今日では、脳科学、機械学習、社会科学など様々な領域で応用され、AIを含む情報通信の分野で欠くべからざる存在である情報理論の基礎を学ぶ。</p> <p>標本化定理、情報量とエントロピー、情報源符号化、通信路での誤り検出・訂正の原理等、情報理論の基本事項について正しく理解し、その情報通信における意義を把握することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>情報を確率の視点からとらえる、という情報理論の根本的な考え方を土台として、情報量の定義、情報源符号化、通信路符号化等について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、情報理論の概要</p> <p>第2回：情報の表現</p> <p>第3回：確率の基礎</p> <p>第4回：情報量 -エントロピーと相互情報量</p> <p>第5回：情報量の性質</p> <p>第6回：情報源のモデルとエントロピーレート</p> <p>第7回：典型系列とその性質</p> <p>第8回：情報源の符号化</p> <p>第9回：ハフマン符号とLZ符号(1) -ハフマン符号-</p> <p>第10回：ハフマン符号とLZ符号(2) -LZ符号-</p> <p>第11回：通信路モデルと通信路容量</p> <p>第12回：通信路符号化定理</p> <p>第13回：誤り訂正符号(1) -2元体、単一パリティ検査符号と線形符号-</p> <p>第14回：誤り訂正符号(2) -ハミング符号、最小距離と誤り訂正能力</p> <p>第15回：まとめ</p>			
テキスト			

植松友彦著 「イラストで学ぶ 情報理論の考え方」 講談社

参考書・参考資料等

授業で配布するスライド資料

久保田一他 著 「C言語による情報理論の入門」 コロナ社

学生に対する評価

期末試験による評価を基準とする。ただし、可以上か、不可か、の判定においては、期末試験のほかに、授業中に適宜課す演習やレポート等の評価も併せて加味する。

授業科目名： コンピュータリテラシー	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮原 一弘
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業には大きく3点の目的・目標を設定している。大学における学習/研究活動にコンピュータは不可欠であるが、これまでの状況を見るとスムーズに使いこなすには至っておらず、非効率である点が散見されている。目的の1点目はその向上である。2点目は日々欠かすことなく利用しているインターネットについての技術的理解を深めることである。なかでもWebについては動作原理からプログラミングを含んだサイト制作までを一貫して扱うこととし、これを3点目の目的とする。</p> <p>[学修到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習/研究活動の道具として、コンピュータを自身が思っている以上に活用できるようになる。 ・ネットワークシステムについて技術的に理解をし、適切に利用することができる。 ・構造的な記述というものによって情報を表現する手法について理解する。 ・Webシステムの原理を理解し、正しいWebサイト、動くシステムを作成できるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>最初に、これまでのPC操作の基本であったGUIとは別の世界であるCUIについて、またそれによってPCを使用しての作業効率を大きく向上させ得ることを知ってもらう。より具体的には、中盤においてPCにおけるファイルシステムの理解と併せて、CUIによるファイル操作を修得してもらう。続いて、インターネット通信についての講義を、理解を深めるための実習とともに行う。後半では、身近な情報システムであるWebを対象として動作原理の学習からサイト作成、プログラミングの初歩までを一貫して学んでいく。サイト制作では、マークアップ言語であるHTMLの基礎から、スタイルシートを利用したレイアウトまで、構造的な言語を用いて情報を表現するといった体験をする。最後にJavaScriptやPHPを用い、実際に動作するWebアプリケーションを作成する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：PCとの対話：GUIとCUI</p> <p>第2回：インターネット基礎1：TCP/IP，IPアドレス</p> <p>第3回：インターネット基礎2：ドメイン名とDNS</p> <p>第4回：インターネット基礎3：whoisデータベース / ファイル管理・操作1：ファイルとは</p> <p>第5回：ファイル管理・操作2：フォルダによるファイル管理，パス</p>			

第6回：ファイル管理・操作3：CUIでのファイル操作，ソフトウェアの導入方法
第7回：ファイル管理・操作4：パイプとリダイレクト，ワイルドカード，実行パス
第8回：Webサイト制作1：Webとは，最初のページを作る
第9回：Webサイト制作2：ハイパーテキスト，URL，HTML
第10回：Webサイト制作3：主要HTML要素，要素記述のルール，画像の挿入，リンク作成
第11回：Webサイト制作4：フォルダによるWebファイルの管理
第12回：Webサイト制作5：論理構造とレイアウトの分離，スタイルシート基本
第13回：Webサイト制作6：スタイルシートによるページデザイン
第14回：Webサイト制作7：Webサイトの完成
第15回：Webサイト制作8：プログラミング入門

テキスト

書籍は使用しない。Webサイトにて資料を配布する。

参考書・参考資料等

栗谷幸助 他，初心者からちゃんとしたプロになる Webデザイン基礎入門，エムディエヌコーポレーション，2019

太田良典 他，HTML解体新書 仕様から紐解く本格入門，ボーンデジタル，2022

学生に対する評価

授業で出題される課題や小テスト 30%，最終課題（プログラミングを含むWebサイト制作）70%で判定する。

授業科目名：コンピュータサイエンス	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：渡邊裕司 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>情報の表現、コンピュータの構成と動作原理、アルゴリズムとデータ構造といった情報科学の基本事項を理解することを目的とする。また、プログラミングを通して、情報科学の基礎に則してコンピュータが情報を処理する仕組みを学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>情報の表現、情報量、論理代数、コンピュータの構成と動作原理、問題解決のためのアルゴリズムとデータ構造について学ぶ。プログラミングについては、コンピュータが情報を処理する仕組みを理解する第一段階として、プログラミング言語Pythonを用いて習得する。</p> <p>第2回以降においては、前回の復習を内容とする小テストを実施し、必要に応じて授業内で課題を出す。また、中間レポートと最終レポートを課す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション：情報科学と情報システム</p> <p>第2回：情報の表現（1）数の表現（2進法）</p> <p>第3回：情報の表現（2）文字の表現、バイナリデータ</p> <p>第4回：情報の表現（3）音声・画像の表現、符号化と圧縮</p> <p>第5回：情報量</p> <p>第6回：論理代数と論理回路</p> <p>第7回：コンピュータの構成（1）種類と構成要素</p> <p>第8回：コンピュータの構成（2）ハードウェア</p> <p>第9回：コンピュータの構成（3）ソフトウェア</p> <p>第10回：アルゴリズムとデータ構造（1）アルゴリズムの表現</p> <p>第11回：アルゴリズムとデータ構造（2）代表的なアルゴリズム、計算量</p> <p>第12回：アルゴリズムとデータ構造（3）代表的なデータ構造</p> <p>第13回：プログラミング（1）プログラミング言語、言語プロセッサ、Python</p> <p>第14回：プログラミング（2）演算、変数、データ型</p> <p>第15回：プログラミング（3）制御構造、関数</p>			
<p>テキスト</p> <p>教科書を使用せず、プリントもしくはWebサイト上の資料を利用して授業を進める。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>・小舘香椎子、岡部洋一、他9名 著、「教養のコンピュータサイエンス 情報科学入門 第</p>			

3版」、丸善出版、2020

・山口和紀 編、「情報 第2版 東京大学教養学部テキスト」、東京大学出版会、2017

学生に対する評価

各回の小テスト・課題40%、中間レポート30%、最終レポート30%

授業科目名： プログラミング I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮原 一弘, 田中 豪
			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>プログラミングの基本的な概念，考え方について理解し，その記述から実行までを滞りなく行えるようになることを目標とする。プログラミング言語としてC言語を用い，初学者が学ぶべき基本的なプログラムをひと通り作成できるようにすることを目的とする。</p> <p>[学修到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ C言語のプログラミング環境を自身のコンピュータに構築できる。 ・ プログラムの記述，コンパイル，実行といった一連の過程を実行できる。 ・ C言語における基本的なプログラムを作成できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>まずC言語によるプログラミングを行う環境について解説し，プログラムの記述，コンパイル，実行といった一連の作業過程について理解させる。続いて，変数，代入，式，演算，データ型といったプログラミング初歩における基本概念を習得させ，条件分岐や繰り返しなどといった制御構造を有するプログラムを書けるようにする。続いて，配列，関数，ファイル入出力について解説し，ここまでをプログラミング I で習得すべき内容とする。また，プログラムの読みやすさや注釈の付け方といった，プログラミング作法についても考えていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：C言語プログラミング環境と実行までの第一歩（担当：宮原一弘）</p> <p>第2回：警告とエラーへの対処，画面への出力，改行の扱いと文字コード（担当：宮原一弘）</p> <p>第3回：変数と代入，キーボードからの読み込み（担当：宮原一弘）</p> <p>第4回：式と演算子，データ型（担当：宮原一弘）</p> <p>第5回：制御構造1（if文による条件分岐）（担当：宮原一弘）</p> <p>第6回：制御構造2（if文，switch文による条件分岐）（担当：宮原一弘）</p> <p>第7回：制御構造3（do文による繰り返し）（担当：宮原一弘）</p> <p>第8回：制御構造4（while文，for文による繰り返し）（担当：宮原一弘）</p> <p>第9回：配列1（1次元配列）（担当：田中豪）</p> <p>第10回：配列2（多次元配列）（担当：田中豪）</p> <p>第11回：関数1（関数の基本）（担当：田中豪）</p> <p>第12回：関数2（配列の受渡し）（担当：田中豪）</p>			

第13回：関数3（有効範囲と記憶域期間）（担当：田中豪）

第14回：ファイル入出力1（ファイル入出力の基本）（担当：田中豪）

第15回：ファイル入出力2（バイナリファイルの扱い）（担当：田中豪）

テキスト

柴田望洋，新・明解C言語 入門編 第2版，SBクリエイティブ，2021

参考書・参考資料等

谷尻かおり，改訂3版 これからはじめるプログラミング基礎の基礎，技術評論社，2018

村山公保，Cプログラミング入門以前（第3版），マイナビ出版，2023

B.W.カーニハン，D.M.リッチー，プログラミング言語C 第2版，共立出版，1989

学生に対する評価

各回の小テスト・課題 50%，期末試験 50%

授業科目名： プログラミング I 演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 宮原 一弘
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>プログラミングの基本的な概念，考え方について理解し，その記述から実行までを滞りなく行えるようになることを目標とする。プログラミング言語としてC言語を用い，初学者が学ぶべき基本的なプログラムをひと通り作成できるようにすることを目的とする。</p> <p>[学修到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ C言語における基本的なプログラムをスムーズに作成できる。 ・ コンパイル時に発生するエラーや警告に適切に対処できる。 ・ ブロック構造が明確に見て取れるプログラム記述ができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>プログラミング I を8回実施した後より本演習が開始となる。第1回では，インデントや空行によってブロック構造を明確にした記述ができていないか，コンパイル時のエラー，警告への対処ができていないかといった点を確認する。第2回以降は，直前のプログラミング I で扱った内容についての演習課題を課し，授業時間内に作成，提出をしてもらう。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：プログラミング作法</p> <p>第2回：制御構造と配列1（1次元配列）</p> <p>第3回：制御構造と配列2（多次元配列）</p> <p>第4回：関数1（関数の基本）</p> <p>第5回：関数2（配列の受渡し）</p> <p>第6回：関数3（有効範囲と記憶域期間）</p> <p>第7回：ファイル入出力1（ファイル入出力の基本）</p> <p>第8回：ファイル入出力2（バイナリファイルの扱い）</p>			
<p>テキスト</p> <p>柴田望洋，新・明解C言語 入門編 第2版，SBクリエイティブ，2021</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>谷尻かおり，改訂3版 これからはじめるプログラミング基礎の基礎，技術評論社，2018</p> <p>村山公保，Cプログラミング入門以前（第3版），マイナビ出版，2023</p> <p>B.W.カーニハン，D.M.リッチー，プログラミング言語C 第2版，共立出版，1989</p>			

学生に対する評価

授業時間中に課したプログラム作成課題 100%

授業科目名： プログラミングⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中村 篤, 渡邊 裕司 担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>プログラミングⅠに引き続いて、C言語によるプログラミングのさらなる習得を目的とする。前半ではC言語習得の上で一番の壁とされるポインタについて、基本概念を理解した上で典型的なプログラムを記述できるようになることを目標とする。後半では、問題を解決するためのアルゴリズム（手順）とそこで扱われるデータ構造について理解することを目的とする。具体的には、探索、再帰、ソートといったアルゴリズムをC言語のプログラムとして記述できるようになる。</p> <p>[学修到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポインタ、構造体といったデータ構造を理解する。 ・アルゴリズム、データ構造のプログラムにおける役割を理解する。 ・探索、再帰、ソートといった代表的なアルゴリズムをプログラムとして記述できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>プログラミングⅠに引き続き、C言語によるプログラミングについて学習する。冒頭では、プログラミングⅠの復習を兼ね、いくつかのプログラム作成を行う。ポインタについては基本概念をきちんと理解させ、配列との関係についても扱う。また文字列操作のためのプログラムをポインタにより記述できるようにする。データをまとめて扱うために構造体についても解説する。アルゴリズムとデータ構造については、その概要を解説した後に、探索、再帰、ソートといった代表的なアルゴリズムを紹介し、その構造について理解させる。第2回以降においては、前回の復習を内容とする小テストを実施し、各回終了後の課題、中間レポート、最終レポートを課す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：プログラミングⅡの概要、データの基本型（担当：中村篤）</p> <p>第2回：データの基本形、いろいろなプログラム（担当：中村篤）</p> <p>第3回：文字列の扱い（文字列の配列と文字列の操作）（担当：中村篤）</p> <p>第4回：ポインタ1（ポインタ入門）（担当：中村篤）</p> <p>第5回：ポインタ2（ポインタと配列）（担当：中村篤）</p> <p>第6回：文字列とポインタ、ポインタによる文字列の操作（担当：中村篤）</p> <p>第7回：文字列を扱うライブラリ関数、中間レポートについて（担当：中村篤）</p>			

第8回：構造体1（構造体の宣言と利用）（担当：渡邊裕司）
第9回：構造体2（構造体の配列）（担当：渡邊裕司）
第10回：アルゴリズムとデータ構造の概要，動的メモリの確保（担当：渡邊裕司）
第11回：探索アルゴリズム（担当：渡邊裕司）
第12回：計算量，スタックとキュー，分割コンパイル（担当：渡邊裕司）
第13回：再帰的アルゴリズム1（再帰という考え方）（担当：渡邊裕司）
第14回：再帰的アルゴリズム2（再帰を利用したプログラム例）（担当：渡邊裕司）
第15回：ソートアルゴリズム，最終レポートについて（担当：渡邊裕司）

テキスト

柴田望洋，新・明解C言語 入門編 第2版，SBクリエイティブ，2021

柴田望洋，新・明解C言語で学ぶアルゴリズムとデータ構造 第2版，SBクリエイティブ，2021

参考書・参考資料等

村山公保，Cプログラミング入門以前（第3版），マイナビ出版，2023

柴田望洋，新・明解C言語 実践編 第2版，SBクリエイティブ，2023

前橋和弥，新・標準プログラマーズライブラリ C言語 ポインタ完全制覇，技術評論社，2017

B.W.カーニハン，D.M.リッチー，プログラミング言語C 第2版，共立出版，1989

学生に対する評価

各回の小テスト・課題 50%，中間レポート 25%，最終レポート 25%

授業科目名： 数学教育法A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 青山 和裕 担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校数学科及び高等学校数学科に関して、重要な指導内容とその指導方法について理解を深める。			
授業の概要 数学科の重要な指導内容を取り上げ、その指導の体系、教科書における具体例やその解釈、それらの数学的背景などについて講義する。また、それらの内容の指導方法についても検討する。			
授業計画 第1回：数学科の目標と指導内容の概観 第2回：数と式及び代数領域の指導内容と児童の学習状況 第3回：数と式及び代数領域における授業設計と評価 第4回：図形及び幾何領域の指導内容と児童の学習状況 第5回：図形及び幾何領域における授業設計と評価 第6回：関数及び解析領域の指導内容と児童の学習状況 第7回：関数及び解析領域における授業設計と評価 第8回：データの活用及び確率統計領域の指導内容と児童の学習状況 第9回：データの活用及び確率統計領域における授業設計と評価 第10回：資質・能力の育成の観点からの数学授業の在り方 第11回：主体的・対話的で深い学びの観点からの数学授業の在り方 第12回：数学科におけるICT機器の利用について 第13回：グループワークによる授業設計・指導案作成・模擬授業準備 第14回：模擬授業の実施とその振り返り 第15回：模擬授業の振り返りを通じた授業改善案の検討 定期試験			
テキスト 中学校学習指導要領解説（数学編）（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説（数学編）（平成30年7月 文部科学省）			
参考書・参考資料等 岩崎秀樹・溝口達也（編著）（2019）．『新しい数学教育の理論と実践』ミネルヴァ書房			
学生に対する評価			

期末テスト (50%)、指導案作成 (50%)

授業科目名： 数学教育法B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高井 吾朗
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 数学教育における、目標、評価、及び内容について多角的に考察する。			
授業の概要 数学教育の現在の目標、評価について解説する。数学教育の現在の課題について考察し、教員になるための資質能力を育てる。 具体的には、現在の数学教育の目標を、戦後の学習指導要領の目標の変遷から概観し、資質能力となりうる数学教育の概念について理解する。また、目標について理解した上で、数学教育の内容について具体的な問題を通して、背景にある数学的知識や技能を考察する。			
授業計画 第1回：数学教育の目標についての概観 第2回：数学教育の目標：数学的思考 第3回：数学教育の目標：メタ認知（1990年代までの研究の概観） 第4回：数学教育の目標：メタ認知（現在までの研究の概観） 第5回：数学教育の目標：数学的モデル化能力についての概観 第6回：数学教育の目標：数学的モデルを含む事例研究と教材開発 第7回：数学教育の目標：数学的モデル化過程を含んだ指導案作成と模擬授業 第8回：数学教育の評価についての概観 第9回：数学教育の内容：図形の証明 第10回：数学教育の内容：文字式 第11回：数学教育の内容：数（自然数） 第12回：数学教育の内容：数（分数・小数） 第13回：数学教育の内容：数（整数（負の数）・無理数） 第14回：数学教育の内容：統計 第15回：数学教育の内容：確率 定期試験			
テキスト 中学校学習指導要領解説（数学）（平成29年7月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説（数学）（平成30年7月告示 文部科学省）			

参考書・参考資料等

磯田 正美・影山 和也（編著）中等数学科教育（新・教職課程演習） 協同出版

学生に対する評価

授業への参加度・意欲（15%） 課題レポート（35%） 定期試験（50%）

授業科目名： 数学教育法C	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 青山 和裕 担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>算数・数学科の指導内容としては新しい統計領域の指導実践を行う力の習得を目指す。統計領域の指導が重要視される背景や求められる教育像を理解した上で、先進的な教材、授業実践についても体験的に学習する。また自身が担い手として新規の教育実践を展開していけるよう、教材・授業開発力の習得も目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>資料等を配布しての講義、現在の教育状況に関する調査・レポートの作成、新規の教材を用いた協働的問題解決を取り入れたグループワークなど幅広く展開する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：統計教育の位置づけと背景</p> <p>第2回：今日の社会における統計の役割</p> <p>第3回：統計に関する指導内容の概観と現状</p> <p>第4回：統計の指導実践例の分析</p> <p>第5回：統計の指導実践例に対する改善案の検討</p> <p>第6回：統計教材の研究と授業内での活動に関する検討</p> <p>第7回：統計教材に対する検討に基づく指導案作成</p> <p>第8回：授業利用可能なICT機器・ソフトウェア</p> <p>第9回：ICT機器・ソフトウェアを利用した授業設計</p> <p>第10回：統計教材を用いたグループワークの在り方についての検討</p> <p>第11回：グループワークを取り入れた統計の授業構想</p> <p>第12回：統計教材を用いた模擬授業の実施</p> <p>第13回：実施した模擬授業に対する研究協議</p> <p>第14回：発展的な学習内容についての検討</p> <p>第15回：発展的な学習内容を扱う授業構想</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>中学校学習指導要領解説（数学編）（平成29年7月 文部科学省）</p> <p>高等学校学習指導要領解説（数学編）（平成30年7月 文部科学省）</p> <p>その他資料配付</p>			

参考書・参考資料等

・竹内 光悦、酒折 文武、宿久 洋（2008）『実践ワークショップExcel徹底活用統計データ分析 基礎編』秀和システム

・デイヴィッド・ムーア（著）、ジョージ・マッケイブ（著）、麻生 一枝（翻訳）、南條 郁子（翻訳）（2008）『実データで学ぶ、使うための統計入門—データの取りかたと見かた』日本評論社

学生に対する評価

レポート（50%）、テスト（50%）

授業科目名： 数学教育法D	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 高井 吾朗 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 数学科授業の理論的知識及び実践力向上			
授業の概要 数学科授業の教材研究、指導案作成について理論的考察を行い、指導案作成と模擬授業により実践力も向上させる。			
授業計画 第1回：数学科指導案の典型 第2回：年間計画・単元計画について 第3回：本時案の詳細 第4回：模擬授業の必要性和動画視聴による考察 第5回：指導案作成①（単元目標・教材観・指導観） 第6回：指導案作成②（単元計画） 第7回：指導案作成③（本時案） 第8回：グループ討議による指導案修正 第9回：模擬授業①（中学校1年生対象） 第10回：模擬授業②（中学校2年生対象） 第11回：模擬授業③（中学校3年生対象） 第12回：模擬授業④（高等学校1年生対象） 第13回：模擬授業⑤（高等学校2年生対象） 第14回：模擬授業⑥（高等学校3年生対象） 第15回：模擬授業に基づく指導案修正			
定期試験			
テキスト 中学校学習指導要領解説（数学）（平成29年7月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説（数学）（平成30年7月告示 文部科学省）			
参考書・参考資料等 礪田 正美・影山 和也（編著）中等数学科教育（新・教職課程演習） 協同出版			
学生に対する評価			

授業への参加度・意欲 (40%) 指導案作成・修正 (40%) 最終レポート (20%)

授業科目名： 介護等体験実習	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 中村篤、山田敦
			担当形態： 複数、オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>社会には多様な人が存在する。その中には様々な事情により障害を抱えた人が少なくない。障害は他人事ではない。事故に遭い後遺症が残るかも知れないし、事故に遭わなくてもいずれは年を取って体の自由が利かなくなる。しかしながら障害者であっても、人として尊厳があり、社会連帯の理念に基づき接しなければならない。特に初等中等教育においては、教員個人として認識を深めるだけでなく、児童に人の尊厳や連帯を教え示すことが不可欠である。</p> <p>そのため小学校及び中学校の教諭の普通免許状取得希望者には、介護等体験が義務付けられており、本学はそのために「介護等体験実習（2単位）」を開設し、中学校教諭一種免許状取得の必修科目としている。</p> <p>授業の概要で示す通り、本科目を学ぶことで、特別支援学校および社会福祉関係施設の状況を理解し、個人の尊厳を自覚し、社会連帯の理念に基づき多様な人と接し、教員の資質向上と学校教育の充実への一通りの基礎ができたことをもって、学修目標に到達したと評価する。</p> <p>なお本科目は、高等学校教諭一種免許状の場合は選択科目であるが、高等学校教諭であっても、個人の尊厳を自覚し、社会連帯の理念に基づき多様な人と接し、教員の資質向上と学校教育の充実を図ることは当然のことであるので、本科目を学ぶことを勧める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>特別支援学校の実習2日間と、社会福祉関係施設における実習5日間と、事前指導・事後指導から、この授業は構成される。</p> <p>実習は実習先の学校・施設を見学するとともに、現場担当者の指示により様々な介護を体験する。介護以外にも（直接利用者と接しない）施設内外の清掃や洗濯への従事もある。さて特別支援学校は、障害をもつ児童が通学しており、社会福祉施設は児童から老人までの様々な施設があり、利用（児）者はそこで日々生活している。これらの社会福祉施設での実習は、教育実習とは異なり、施設利用（児）者の日常生活援助にたずさわ実習であるためプライバシーに直接触れることが多い。その意味で、利用（児）者やその施設に対する深い理解が必要であり、生半可な気持ちで実習を行うべきではない。</p> <p>そこで、本学では、介護等体験実習の事前・事後指導の時間を設け、外部講師を呼びながら社会福祉施設などでの実習に必要な知識を深め、正しい認識を得てから実習に臨めるようにしている。免許状を取得しようとする学生は、この事前・事後指導も合わせて履修しなければならない</p>			

らない。

なお実習先は社会福祉協議会等からの振り分けによるので、学生が希望の期間、施設で実習できるとは限らない。

授業計画

第1回：「実習指導」の目的・日程・内容・心構え（中村、山田）

第2回：実習事前指導（1）事前に何を学ぶのか（山田）

第3回：実習事前指導（2）障害と介護について（山田）

第4回：実習事前指導（3）社会福祉関連施設について（山田）

第5回：実習事前指導（4）特別支援学校について（山田）

第6回：実習事前指導（5）授業総括（中村、山田）

第7回：社会福祉関連施設での実習（1）1日目：施設説明（中村、山田）

第8回：社会福祉関連施設での実習（2）2日目：清掃支援（中村、山田）

第9回：社会福祉関連施設での実習（3）3日目：洗濯支援（中村、山田）

第10回：社会福祉関連施設での実習（4）4日目：介護支援（中村、山田）

第11回：社会福祉関連施設での実習（5）5日目：娯楽支援（中村、山田）

第12回：実習事後指導（1）社会福祉関連施設実習の反省会（中村、山田）

第13回：特別支援学校での実習（1）1日目：施設説明（中村、山田）

第14回：特別支援学校での実習（2）2日目：清掃支援（中村、山田）

第15回：実習事後指導（2）特別支援学校実習の反省会（中村、山田）

定期試験は行わないが、実習レポートを提出すること。

テキスト

介護等体験実習用のテキストを貸し出すので、各自で熟読すること。

参考書・参考資料等

介護等体験実習用の参考書・参考資料は、滝子キャンパス1号館415号室に備え付けられているので、借りて読んでおくこと。

学生に対する評価

学修到達目標に基づき、以下の通り評価する。

秀：学修到達目標のすべてを高いレベルで達成することができた。

優：学修到達目標のすべてを十分に達成することができた。

良：学修到達目標のすべてを達成できた。

可：学修到達目標のいくつかにおいて低いレベルでしか達成できなかった。

授業科目名：道徳教育	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 山田美香 担当形態： 単独
科 目	（中学校） 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 （高等学校） 大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	（中学校）道徳の理論及び指導法 （高等学校） -		
授業のテーマ及び到達目標 （到達目標） ・道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。 （テーマ） ・道徳の本質（道徳とは何か）を説明できる。 ・道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解している。 ・子どもの心の成長と道徳性の発達について理解している。 ・学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。 ・学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。 ・道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。 ・道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。 ・授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。 ・道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。 ・模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。			
授業の概要 ・特別の教科道徳について目標、内容、指導計画、指導方法を学び、さらに学習指導案を作成する。また、評価についても理解をする。			
授業計画 第1週 道徳の本質、これまでの道徳の議論に関する紹介			

第2週	日本の戦前・戦後の道徳教育
第3週	現代の道徳教育の課題
第4週	心理学と道徳性の発達、道徳教育について
第5週	学習指導要領と道徳教育 目標、内容項目
第6週	学校における指導計画
第7週	学校において全教育活動を通して道徳教育を行うことについて
第8週	道徳科の多様な指導方法
第9週	道徳科の授業の授業設定
第10週	道徳科の指導案作成—授業のねらい
第11週	道徳科の指導案作成—授業の過程
第12週	道徳科の学習評価
第13週	模擬授業
第14週	模擬授業の問題点と今後の課題
第15週	まとめ
テキスト	
<ul style="list-style-type: none"> ・永田 繁雄（監修），『道徳教育』編集部（編集）『平成29年版 学習指導要領改訂のポイント 小学校・中学校 特別の教科 道徳（『道徳教育』PLUS）』2017年、明治図書出版 ・中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・中学校学習指導要領解説・総則編（平成29年7月 文部科学省） 	
参考書・参考資料等	
<ul style="list-style-type: none"> ・赤堀博行（著）『「特別の教科 道徳」で大切なこと』2017年、東洋館出版社 ・田沼茂紀 『「特別の教科 道徳」授業&評価完全ガイド』2016年、明治図書出版 	
学生に対する評価	
レポート50%、指導案作成50%	

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小林 直三、松村 智史
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ「基礎から学ぶ日本国憲法」</p> <p>到達目標</p> <p>(1) 立憲主義に関して、基礎的な理解ができること。</p> <p>(2) 日本国憲法で保障する統治機構に関して、基本的な理解ができること。</p> <p>(3) 日本国憲法で保障する基本的人権に関して、基本的な理解ができること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「憲法」は、われわれの人権を保障し、かつ、国の統治機構の基本を定めています。それだけに「憲法」は、われわれにとって非常に重要なものです。特に教育に携わる仕事を目指す人たちにとって、「憲法」を学ぶことは、とても大切なことです。しなしながら、日本の「憲法」である「日本国憲法」の内容に関しては、必ずしも正確に理解されていない場合も多いものと思われまます。そこで、この講義では、「日本国憲法」に関して、基礎から学び、その基本を理解することを目的・目標とします。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション：法とは何か？憲法とは何か？</p> <p>第2回：法の支配の正当性：立憲主義と民主主義との緊張関係を踏まえて</p> <p>第3回：日本国憲法の制定過程</p> <p>第4回：日本国憲法の平和主義</p> <p>第5回：国民主権について</p> <p>第6回：国会と財政</p> <p>第7回：内閣と裁判所</p> <p>第8回：地方自治</p> <p>第9回：人権総論</p> <p>第10回：精神的自由</p> <p>第11回：経済的自由と人身の自由</p> <p>第12回：社会権</p> <p>第13回：参政権</p> <p>第14回：その他の人権について</p>			

第15回：全体のまとめ

定期試験

テキスト

小林直三、大江一平、薄井信行他編『判例で学ぶ憲法』（法律文化社、2022年）

*講義で直接的に用いるわけではありませんが、予習・復習の際に利用して下さい。講義は、このテキストで予習・復習をきちんとしていることを前提に行います。

参考書・参考資料等

①大久保卓治、その他編『憲法入門！市民講座』（法律文化社、2020年）

*平易な表現で書かれた入門書。はじめて憲法を学ぶ人におすすめの本です。下の『憲法実感！ゼミナール』の姉妹本的なものとなっています。

②孝忠延夫・大久保卓治編『憲法実感！ゼミナール』（法律文化社、2014年）

*平易な表現で書かれていますが、内容的には、かなり深いものがあります。憲法に関心のある方は、参考に読んでみてください。

③澤野義一・小林直三編『テキストブック憲法（第2版）』（法律文化社、2017年）

*日本国憲法の全体像を比較的コンパクトにまとめた本です。公務員試験の基本書としても役立つと思います。

④伊藤恭彦・小林直三・三浦哲司編『転換期・名古屋の都市公共政策—リニア到来と大都市の未来像—』（ミネルヴァ書房、2020年）

*憲法と直接かかわるのは2章と14章だけですが、本学の多くの専任教員の先生方が執筆しており、憲法の理念の生かすための関連分野として、参考にお読みください。

学生に対する評価

学期末に行う定期試験（60%）、レポート課題（40%）により、総合的に評価します。

授業科目名： 健康・スポーツ科学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高石 鉄雄、奥津 光晴
			担当形態： オムニバス
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分	・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>健康は全ての活動の基本となる。本講義は、身体活動に関する科学的認識を深め、成長期における健全な発育と発達、生涯にわたる健康の保持増進および生活の質向上における運動実施の必要性を理解するとともに、運動実践による健康づくり・体力向上のための具体的方法を身につけることを目的とする。</p> <p>[学習到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体活動の必要性と方向性について、健康科学、体力科学の立場から説明できる。 2. 日常生活の中で自身および他者の体力と健康状況を客観的に評価し、必要に応じて適切な運動プログラムを作成し、さらにそのプログラムの実践あるいは指導ができる能力を身につける。 			
<p>授業の概要</p> <p>加齢とともに高まる健康障害のリスク（メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドローム、認知症など）とそれらに対してわが国がどのような対策を取っているかを学習する。ついで、身体活動を運動生理学、生体力学などの立場から理解し、どのような有酸素運動、無酸素運動を行うことが体力維持、健康管理に有効かを講義と実際の身体活動を通して理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス、健康づくりの必要性と方向性（高石 鉄雄）</p> <p>第2回 メタボリックシンドロームとは（高石 鉄雄）</p> <p>第3回 身体運動の理解（高石 鉄雄）</p> <p>第4回 ロコモティブシンドロームとは（奥津 光晴）</p> <p>第5回 メタボ予防のための運動（高石 鉄雄）</p> <p>第6回 ロコモ予防のための運動（奥津 光晴）</p> <p>第7回 運動処方（高石 鉄雄）</p> <p>第8回 認知症とその予防、総括（高石 鉄雄）</p>			
<p>テキスト</p> <p>スライドを基にテキストを作成し配布する</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

特になし

学生に対する評価

授業時のリアクションペーパー（50点）、課題レポート（30点）、授業態度・参加姿勢（20点）の合計100点満点で採点し、評価スケールに従い、秀～可および不可の評定を行う。

授業科目名： 健康・スポーツ実技	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 野中 壽子
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分	・体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>本講義は、生涯にわたる健康の維持増進や生活の質向上のための運動を実践する方法を理解し、健康に留意した生活行動を構築することを目的としている。具体的には運動処方論に基づいた、有酸素運動（エアロビクス）の定期的な実践を通して基礎体力の獲得を目指すとともに、将来の健康の維持増進に必要な知識や実践方法を修得することを目標とする。</p> <p>[学習到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の維持増進や生活の質向上のための運動を実践する方法を修得する。 2. 健康に留意した生活行動が取れるようになる。 			
授業の概要			
<p>本講義では、音楽に合わせて持続的に全身運動を行うエアロビックダンスの中で、下肢への負担が少なくエネルギー消費量が多いと考えられている「ステップエクササイズ」を中心に、ストレッチング、筋コンディショニングを組み合わせたトータルフィットネスプログラムを取り上げる。ステップエクササイズは基本のステップに毎回新しいステップを追加していく積み上げ式で行う。</p>			
授業計画			
第1回 ガイダンス 科目の目的および目標について			
第2回 エアロビックエクササイズ・ステップエクササイズの基礎理論 特徴及び実施上の留意点			
第3回 ステップエクササイズの基本的動作1 ベーシックステップ・Vステップ			
第4回 ステップエクササイズの基本的動作2 追加ステップ：タップアップ・オーバーザトップ			
第5回 ステップエクササイズの基本的動作3 追加ステップ：ターンステップ・Aステップ			
第6回 ステップエクササイズの基本的動作4 追加ステップ：リピーター・ストラドル			
第7回 ステップエクササイズの基本的動作5 追加STEPき：ステップニー・バックランジ			
第8回 ステップエクササイズの基本的動作6 追加ステップ：マンボステップ			
第9回 ステップエクササイズの基本的動作7 追加ステップ：Lステップ			
第10回 ステップエクササイズの応用1 動きのバリエーションを楽しむ			
第11回 ステップエクササイズの応用2 動きのコンビネーションを楽しむ			
第12回 ステップエクササイズの応用3 フレーズを楽しむ			
第13回 ステップエクササイズの応用4 ダンス的動きを楽しむ			

第14回 エアロビックダンスのバリエーション ハイインパクトのエアロビックダンス

第15回 まとめ 実技実施の振り返り

テキスト

説明資料を配布するためテキストは用いない

参考書・参考資料等

「健康・スポーツ科学」※前期「健康・スポーツ科学」の授業で使用したテキスト

「身体運動・健康科学ベーシック」東京大学出版会 東京大学身体運動科学研究室 編

学生に対する評価

実技実施状況（70%）、毎回の授業終了時に記入するチェックシートから判断される健康管理に関する理解度（20%）、総合レポート（10%）で評価する。

授業科目名： CS: Presentation	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： レジナルド サロンガ 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>Core Skills in English (CS) courses focus on improving and polishing core skills and are taught entirely in English.</p> <p>Core Skills in English (CS)コースは、コアスキルの向上と研磨に焦点を当て、すべて英語で授業が行われます。</p> <p>This CS: Presentation course focuses on developing the core skills you will need to present yourself in various communication settings, such as discussion and formal presentations. You will learn vocabulary, expressions, how to improve your visual aids and presentation strategies that are useful in these settings. In addition, by developing your skills through weekly practice, you will be able to communicate confidently and effectively in front of audiences of various sizes. Everyone is welcome to join this class.</p> <p>このCS：プレゼンテーションコースは、ディスカッションやフォーマルなプレゼンテーションなど、さまざまなコミュニケーションの場で自分を表現するために必要なコアスキルの開発に重点を置いています。これらの場面で役立つ語彙、表現、ビジュアルエイドの改善方法、プレゼンテーション戦略などを学びます。また、毎週の練習でスキルを磨くことで、様々な規模の聴衆の前で自信をもって効果的にコミュニケーションをとることができるようになることでしょう。どなたでも参加できるクラスです。</p> <p>By the end of the course, you will have improved in many areas. You can expect to be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Improve and polish your essential core verbal, physical, and making visual aids skills in presentation. 2. Present yourself and your interests in various communication settings, such as discussion and formal presentations. 3. Improve Basic research skills 4. Balance being both an active speaker and a responsive listener. 5. Increase your awareness of social issues related to your major aligned with the 			

Sustainable Development Goals (SDGs)

コース終了時には、多くの分野で上達していることでしょう。以下のことをできるようになることが期待できます。

1. プレゼンテーションに必要な言語的、身体的、視覚的スキルが向上し、磨きがかかる。
2. ディスカッションやプレゼンテーションなど、様々なコミュニケーションの場で、自分自身や自分の関心事をプレゼンテーションすることができる。
3. リサーチ能力の向上
4. 積極的な話し手と応答的な聞き手の両方をバランスよくこなす。
5. 持続可能な開発目標 (SDGs) に沿って、自分の専攻に関連する社会的な問題意識を高める。

授業の概要

The focus of this course is on communicating with others. The classroom time will be mostly spent actively using English, one-on-one, in small groups, or front of an audience. A typical lesson will begin with a short warm-up activity followed by the main activity. Main activities vary weekly and may include discussions, presentations, or communication skill-building activities.

このコースの焦点は、他者とのコミュニケーションにあります。授業では、1対1、小グループ、または聴衆の前で積極的に英語を使うことがほとんどです。典型的な授業は、短いウォームアップから始まり、その後メインアクティビティが行われます。メインアクティビティは毎週異なり、ディスカッション、プレゼンテーション、コミュニケーションスキルを高めるためのアクティビティなどが含まれます。

授業計画

Part 1: Presentation skills check through PAIR PRESENTATION

(第1部 ペアプレゼンテーションによるプレゼンテーションスキルチェック)

Lesson 1: Introduction to the course, including course goals; getting to know you

(第1回 コースの目標を含むコースの紹介、あなたを知ること)

Lesson 2: About ourselves and choosing our topic

(第2回 自分自身について、そしてトピックの選択)

Lesson 3: How to create the story message; Preparation of written speech and visual aids

(第3回 ストーリーメッセージの作り方、スピーチ原稿とビジュアルエイドの準備)

Lesson 4: How to improve your voice and posture; Practice your presentation

(第4回 声と姿勢の整え方、プレゼンテーションの練習)

Lesson 5: PAIR PRESENTATION

(第5回 ペアプレゼンテーション)

Part 2: The speeches of world leaders/influencers that change the world X SDGs in

GROUP PRESENTATION

(第2部 世界を変えるリーダー／インフルエンサーのスピーチ×SDGs in GROUP PRESENTATION)

Lesson 6: Choose your world leader(s)/influencer(s) and his/her/their popular speech

(第6回 世界のリーダー/インフルエンサーとその代表的なスピーチを選ぶ。)

Lesson 7: The leader's short biography

(第7回 リーダーの略歴)

Lesson 8: Select your parts from the speech; Activity on voice inflection, emotion and gestures

(第8回: スピーチの一部を選択し、声の抑揚、感情、ジェスチャーについて学習する。)

Lesson 9: Lessons learned X SDGs; Practice your presentation

(第9回 SDGsの教訓、プレゼンテーションの練習)

Lesson 10: GROUP PRESENTATION

(第10回 グループ発表)

Final: Your major/interest X SDGs in INDIVIDUAL PRESENTATION

(最終部 自分の専攻・興味×SDGsで個人プレゼン)

Lesson 11: Choose a topic from your major

(第11回 自分の専攻からテーマを選ぶ)

Lesson 12: Your topic X SDGs; How to cite your references

(第12回 自分のテーマ×SDGs、参考文献の引用のしかた)

Lesson 13: Preparation for final presentation

(第13回 最終発表の準備)

Lesson 14: FINAL PRESENTATIONS (half of the students)

(第14回 最終発表会 (前半))

Lesson 15: FINAL PRESENTATIONS (the rest of the students)

(第15回 最終発表会 (後半))

Lesson 16: Final evaluation

(第16回 最終評価)

テキスト

No official textbook. Learning materials will be provided in the MS Teams class.

(公式テキストはありません。学習教材はMicrosoft Teamsより提供します。)

参考書・参考資料等

Harrington, D. & LeBeau, C. (2009). Speaking of Speech Basic Presentation Skills for Beginners (New ed.). Tokyo: Macmillan Publishers Limited.

学生に対する評価

Presentation #1: 20%

Presentation #2: 20%

Final Presentation: 25%

Homework and Activities: 15%

Preparation: 10%

Attitude and personal development: 10%

Total: 100%

プレゼンテーション#1: 20%

プレゼンテーション#2: 20%

最終発表会: 25%

宿題とアクティビティ: 15%

準備: 10%

姿勢と自己啓発: 10%

合計 : 100

授業科目名： CS: Presentation	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野上 ステイシーアン
			担当形態： クラス分け、単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>Core Skills in English (CS) courses focus on improving and polishing core skills and are taught entirely in English. Class placement is based on proficiency levels. In CS: Presentation courses, the focus is on developing the core skills you will need in order to perform in a variety of oral communication settings (presentation, conversation, drama, and/or discussion). These include verbal and nonverbal communication skills, as well as presentation strategies (crafting a message, organizing content, researching, and creating visuals). In addition, by developing your skills through weekly practice, you will be able to communicate confidently and effectively in front of different audiences.</p>			
<p>Core Skills in English (CS) は、コアスキルの向上と研磨に焦点を当てたコースで、授業はすべて英語で行われます。クラス分けは習熟度によって行われます。CS: Presentation コースでは、さまざまなオーラルコミュニケーションの場（プレゼンテーション、会話、ドラマ、ディスカッション）で必要とされるコアスキルの向上に焦点をあてています。これには、言語的・非言語的コミュニケーションスキル、プレゼンテーション戦略（メッセージの作成、内容の整理、リサーチ、ビジュアルの作成）などが含まれます。さらに、毎週の練習でスキルを磨くことで、さまざまな聴衆の前で自信を持って効果的にコミュニケーションできるようになります。</p>			
By the end of the course, you should be able to demonstrate :			
<ol style="list-style-type: none"> 1. Better control of verbal communication such as: intonation, stress, rhythm, pronunciation. 2. Effective use of nonverbal communication such as: gestures, eye contact, facial expressions, volume, body language. 3. Clarity and purpose when researching, creating and presenting content using language and visuals. 4. A positive attitude and self-confidence to communicate. 5. Improved fluency in speaking English. 			

6. Balance as both an active speaker and a responsive listener.

コース終了時には、以下のことができるようになっているはずです。

1. イントネーション、ストレス、リズム、発音など、言語コミュニケーションにおけるより良いコントロールができる。
2. ジェスチャー、アイコンタクト、表情、音量、ボディランゲージなどの非言語的コミュニケーションの効果的な使用。
3. 言語やビジュアルを使ったコンテンツの研究、作成、発表の際の明確さと目的。
4. コミュニケーションに対する前向きな姿勢と自信。
5. 5. 流暢に英語を話すことができるようになる。
6. 積極的な話し手と応答的な聞き手の両方としてのバランス。

授業の概要

The aim of this course is to allow the students to capture the world around them and present using pictures rather than words their thoughts, opinions and feelings about the images. Through field work and personal reflection students will develop their individual presentations style focusing on connecting with the audience.

このコースの目的は、生徒が自分の周りの世界をとらえ、言葉ではなく絵を使って、そのイメージについての考えや意見、感情を発表することです。フィールドワークと個人的な考察を通して、聴衆とのつながりを重視した個々のプレゼンテーションスタイルを身につけます。

授業の概要

Class placement is based on proficiency levels, and each section will have slightly different content, methods, and activities which will be tailored to the levels and interests of the students in each section. The following is a list of general skills covered. The specific course themes will be specified by your instructor at the beginning of the course.

クラス分けは習熟度別に行われ、各セクションの生徒のレベルや興味に合わせて、内容や方法、アクティビティが若干異なります。以下は、カバーする一般的なスキルのリストです。具体的なコーステーマは、コース開始時に担当講師が指定します。

- 1 Orientation to the course and Student Success To introduce the course objectives, expectations, class rules and learning outcomes. To understand what is expected from the students in this class.

1 コースと学生の成功へのオリエンテーション コースの目的、期待、クラスのルール、学習成果などを紹介する。この授業で受講生に期待されていることを理解する。

2 Pecha Kucha and the Importance of Voice. Representations of me.

To learn pecha kucha and how to speak freely about an image or object that represents you. To reflect on an image that represents you.

2 Pecha Kuchaと声の重要性。自分を表現すること。ペチャクチャと、自分を表現するイメージやモノについて自由に発言する方法を学ぶ。自分を表現するイメージについて考えること。

3 Field Work To find and capture a place, or object that relates to the topic.

To find images related to the topic.

3 フィールドワーク トピックに関連する場所や物を見つけ、撮影すること。トピックに関連する画像を探す。

4 Preparation To prepare a presentation based on the pictures you collected.

To create an interesting presentation by yourself.

4 準備 収集した写真をもとに、プレゼンテーションの準備をする。自分で面白いプレゼンテーションをする。

5 Presentation 1 To demonstrate images or objects that represent you.

To recognize positive and negative body language and how it

5 発表 1 自分を表現する画像や物を示す。ポジティブなボディランゲージとネガティブなボディランゲージを認識し、それがどのようなものであるかを知る。

6 Me and My Happiness. To find what makes you happy.

To make a presentation on a topic of interest.

6 自分と幸せ。自分を幸せにするものを見つける。興味のあるテーマについてプレゼンテーションをする。

7 Field Work To find and capture a place, or object that relates to the topic.

To find images related to the topic.

7 フィールドワーク トピックに関連する場所や物を見つけ、とらえること。トピックに関連する画像を見つけること。

8 Preparation To prepare a presentation based on the pictures you collected.

8 準備 収集した画像をもとに、プレゼンテーションの準備をする。

9 Presentation 2 To learn about the manuscript style of presentations.

To understand manuscript presentations.

9 プレゼンテーション 2 プレゼンテーションの原稿形式を知る。原稿形式のプレゼンテーションを理解する。

10 Beauty Around To Prepare a presentation to exhibit preparation.

To make a presentation on a topic of interest.

<p>10 ビューティーア라운드 準備を展示するためのプレゼンテーションを準備する。興味のあるテーマについてプレゼンテーションをすること。</p>
<p>11 Field Work To find and capture a place, or object that relates to the topic. To find images related to the topic.</p>
<p>11 フィールドワーク 話題に関連する場所、物を探し、撮影する。トピックに関連する画像を見つけること。</p>
<p>12 Preparation To prepare a presentation based on the pictures you collected. To practice the power of persuasion.</p>
<p>12 準備 収集した画像をもとに、プレゼンテーションの準備をする。説得力を高める練習をする。</p>
<p>13 Presentation 3 To give a presentation that solves a problem.</p>
<p>13 プレゼンテーション 3 課題を解決するプレゼンテーションを行うこと。</p>
<p>14 FINAL preparation To prepare a presentation based on the pictures you collected.</p>
<p>14 最終準備 収集した写真をもとに、プレゼンテーションを準備する。</p>
<p>15 FINAL Presentation To prepare a presentation based on the pictures you collected</p>
<p>Final Assessment</p>
<p>15 FINAL プレゼンテーション 収集した写真をもとにプレゼンテーションを作成すること 最終評価</p>
<p>テキスト</p>
<p>Materials will be provided by the instructor. (教材は講師が用意します。)</p>
<p>参考書・参考資料等</p>
<p>なし</p>
<p>学生に対する評価</p>
<p>Field Work 15%</p>
<p>Preparation 15%</p>
<p>Presentations (10% each) 30% total</p>
<p>Final Presentation 15 %</p>
<p>Final Reflection 15%</p>
<p>Attitude and Participation 10%</p>
<p>フィールドワーク 15%</p>
<p>準備 15%</p>
<p>プレゼンテーション (各10%) 合計30%</p>
<p>最終プレゼンテーション 15%</p>
<p>最終的な振り返り 15%</p>
<p>態度・参加率10%</p>

授業科目名： CS: Presentation	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： ベンジャミン バックウェル
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
Core Skills in English (CS) courses focus on improving and polishing core skills and are taught entirely in English.			
In CS: Presentation courses, the focus is on developing the core skills you will need in order to perform in a variety of oral communication settings (presentation, conversation, drama, and/or discussion). These include verbal and nonverbal communication skills, as well as presentation strategies (crafting a message, organizing content, researching, and creating visuals). In addition, by developing your skills through weekly practice, you will be able to communicate confidently and effectively in front of different audiences.			
You will also be able to conduct field work on a variety of important topics.			
<p>Core Skills in English (CS)コースは、コアスキルの向上と研磨に焦点を当て、すべて英語で授業が行われます。</p> <p>CS：プレゼンテーションコースでは、様々なオーラルコミュニケーションの場（プレゼンテーション、会話、ドラマ、および/またはディスカッション）でパフォーマンスを発揮するために必要なコアスキルの向上に重点を置いています。これには、言語的および非言語的コミュニケーションスキル、プレゼンテーション戦略（メッセージの作成、コンテンツの整理、リサーチ、ビジュアル作成）などが含まれます。さらに、毎週の練習でスキルを磨くことで、さまざまな聴衆の前で自信をもって効果的にコミュニケーションをとることができるようになります。また、様々な重要なトピックについてフィールドワークを行うことができますようになります。</p>			
By the end of the course, you should be able to demonstrate :			
<ol style="list-style-type: none"> 1. Better control of verbal communication such as: intonation, stress, rhythm, pronunciation. 2. Effective use of nonverbal communication such as: gestures, eye contact, facial expressions, volume, body language. 			

3. Clarity and purpose when researching, creating and presenting content using language and visuals.

4. A positive attitude and self-confidence to communicate.

5. Improved fluency in speaking English.

6. Balance as both an active speaker and a responsive listener.

コース終了時には、以下のことができるようになっているはずです。

1. イントネーション、ストレス、リズム、発音など、言語コミュニケーションのコントロールができるようになる。
2. ジェスチャー、アイコンタクト、表情、音量、ボディランゲージなど、非言語コミュニケーションの効果的な使い方
3. 言語やビジュアルを使ったコンテンツの研究、作成、プレゼンテーションの際に、明確な目的を持つことができる。
4. コミュニケーションに対する前向きな姿勢と自信。
5. 英語を話すときの流暢さが向上する。
6. 積極的な話し手と応答的な聞き手の両方としてのバランス。

授業の概要

The focus of this course is on communicating with others. The majority of classroom time will be spent actively using English, in pairs, in small groups, or in front of an audience. A typical lesson begins with the main topic for the day, leading towards its application in a larger performance. Activities will vary from week to week in order to practice communication skills and presentation strategies.

このコースの焦点は、他者とのコミュニケーションにあります。授業時間の大半は、ペア、小グループ、または聴衆の前で、積極的に英語を使うことに費やされます。通常の授業は、その日の主要なトピックから始まり、より大きなパフォーマンスの中でその応用へと導きます。アクティビティは、コミュニケーションスキルやプレゼンテーションのストラテジーを練習するために、週ごとに異なります。

授業計画

Class placement is based on proficiency levels, and each section will have slightly different content, methods, and activities which will be tailored to the levels and interests of the students in each section.

The following is a list of general skills covered. The specific course themes will be specified by your instructor at the beginning of the course.

Week 1: Orientation to the course

(第1週 コースへのオリエンテーション)

Week 2: Verbal skills introduction

(第2週 バーバルスキル入門)

Week 3: Verbal skills practice (Field work preparation)

(第3週 バーバルスキルの練習 (フィールドワークの準備))

Week 4: Field Work - Place of Primary Importance in Hometown

(第4週 フィールドワーク - ふるさとで最も重要な場所)

Week 5: Nonverbal skills introduction

Classroom Presentations from research/field work. Peer evaluation/Reflection

(第5週 ノンバーバルスキル入門

研究/フィールドワークからのクラスルームプレゼンテーション。ピア評価/リフレクション)

Week 6: Nonverbal skills practice (Field work preparation)

(第6週 ノンバーバルスキルの練習 (フィールドワークの準備))

Week 7: Field Work - SDG research about hometown.

(第7週 フィールドワーク～ふるさとに関するSDGsの調査)

Week 8: Presentation strategies (content) introduction

Classroom Presentations from field work. Peer evaluation/Reflection

(第8週 プレゼンテーションの戦略 (内容) 入門

フィールドワークからの教室でのプレゼン ピア評価/リフレクション)

Week 9: Presentation strategies (content) practice. (Field work preparation)

(第9週 プレゼンテーションの戦略 (内容) 導入 (フィールドワークの準備))

Week 10: Field Work: Interviews Local People of importance

(第10週 フィールドワーク : 現地の重要人物にインタビュー)

Week 11: Presentation strategies (visual) introduction

(第11週 プレゼンテーション戦略 (ビジュアル) 導入)

Week 12: Presentation strategies (visual) practice

(第12週 プレゼンテーション戦略 (ビジュアル) 実践)

Week 13: Presentation strategies (visual) performance

(第13週 プレゼンテーション戦略 (ビジュアル) パフォーマンス)

Week 14: Final in-class performances

(第14週 クラス内最終パフォーマンス)

Week 15: Final interclass performances

(第15週 クラス間最終パフォーマンス)

Week 16: Review and feedback

(第16週 レビューとフィードバック)

テキスト

Textbook use will be announced during the first lesson.

(教科書の使用については、初回講義の際にお知らせします。)

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

Class participation 30%

Homework assignments 20%

Presentations 40%

Visual aids 10%

授業への参加 30%

課題 20%

プレゼンテーション 40%

ビジュアルエイド 10%

授業科目名： CS: Presentation	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： アシュリー フォード
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
Core Skills in English (CS) courses focus on improving and polishing core skills and are taught entirely in English.			
Core Skills in English (CS)コースは、コアスキルの向上と研磨に焦点を当て、すべて英語で行われます。			
In CS: Presentation courses, the focus is on developing the core skills you will need in order to perform in a variety of oral communication settings (presentation, conversation, drama, and/or discussion). These include verbal and nonverbal communication skills, as well as presentation strategies (crafting a message, organizing content, researching, and creating visuals). In addition, by developing your skills through weekly practice, you will be able to communicate confidently and effectively in front of different audiences.			
CS: プレゼンテーションコースでは、様々なオーラルコミュニケーションの場（プレゼンテーション、会話、ドラマ、ディスカッション）で必要とされるコアスキルの向上に焦点を当てます。これには、言語的・非言語的コミュニケーションスキル、プレゼンテーション戦略（メッセージの作成、内容の整理、リサーチ、ビジュアルの作成）などが含まれます。さらに、毎週の練習でスキルを磨くことで、さまざまな聴衆の前で自信を持って効果的にコミュニケーションをとることができるようになります。			
[Drama and Storytelling]			
This class section will focus on the practice of communication and presentation skills through storytelling and the use of methods and strategies from speech, drama, and the arts, with activities such as oral interpretation and reader's theater, as well as the use of authentic English materials from music, poetry, and literature as content for study. Practice and performance in this way will stimulate and motivate you to use English as well as strengthen your overall communication skills and confidence in English.			

【ドラマとストーリーテリング】の授業]

このクラスセッションでは、ストーリーテリングによるコミュニケーションとプレゼンテーションスキルの練習に焦点を当て、スピーチ、ドラマ、アートの手法や戦略を用いて、オーラルインタープリテーションやリーダーズシアターなどのアクティビティ、また音楽、詩、文学などの本物の英語教材を学習内容として使用します。このような練習やパフォーマンスは、英語を使うことへの刺激やモチベーションを高めるだけでなく、英語での総合的なコミュニケーション能力と自信を強化することができます。

By the end of the course, you should be able to:

- Understand the basic structure of stories and analyze, interpret, and present the meaning of stories in English.
- Utilize a variety of spoken language features of English, especially stress, rhythm, and intonation.
- Utilize appropriate and effective non-verbal communication skills such as: gestures, eye contact, and facial expressions.
- Prepare and perform cooperatively and collaboratively through pair and group presentations.
- Confidently speak and perform in front of an audience in English.

コース終了時には、以下のことができるようになります。

- 物語の基本構造を理解し、英語で物語の意味を分析し、解釈し、表現することができる。
- 英語の様々な特徴、特にストレス、リズム、イントネーションを活用することができる。
- ジェスチャー、アイコンタクト、顔の表情など、適切で効果的な非言語的コミュニケーションスキルを活用する。
- ペアやグループでのプレゼンテーションの準備をし、協力して行う。
- 聴衆の前で自信を持って英語で話し、発表することができる。

授業の概要

The majority of classroom time will be spent actively using English, in pairs, in small groups, or in front of an audience. A typical lesson will begin with speaking or discussion, followed by the introduction of a target skill and method and material to practice for the day. Students may be asked to present or perform these in front of the class. Daily activities will vary from in order to isolate and practice certain communication skills or strategies, but larger performances will

focus on the application and assessment of all.

授業時間の大半は、ペア、小グループ、または聴衆の前で積極的に英語を使用することに費やされます。典型的な授業は、スピーキングまたはディスカッションで始まり、その後、目標とするスキルや方法、その日のために練習する材料が紹介されます。生徒は、これらをクラスの前で発表したり、実行したりするよう求められることもあります。日々の活動は、特定のコミュニケーションスキルやストラテジーを分離して練習するためと、より大きなパフォーマンスでは、すべての応用と評価に焦点を当てるため、様々なものがあります。

授業計画

Week 1: Self-Evaluation, Introduction to the Course (Rhyme)

(第1週 自己評価、コースの紹介 (韻文))

Week 2: The Voice: Stress and Rhythm (Rap)

(第2週 声 : ストレスとリズム (ラップ))

Week 3: The Voice: Intonation and Emotion Pronunciation (Poem)

(第3週 声 : イントネーションと感情の発音 (詩))

Week 4: The Voice: Phrasing and Pausing (Short Story)

(第4週 声 フレーズとポーズ (短編小説))

Week 5: The Voice: Pronunciation (Tongue Twisters)

(第5週 声 発音 (早口言葉))

Week 6: Performance 1 (Oral Interpretation)

(第6週 パフォーマンス1 (口頭通訳))

Week 7: The Body: Gestures and Mime (Role-play)

(第7週 身体 ジェスチャーとパントマイム (ロールプレイ))

Week 8: The Body: Posture and Movement (Improv)

(第8週 身体 姿勢と動き (インプロ))

Week 9: The Body: Facial Expressions and Eye Contact (Silent movie)

(第9週 身体 表情とアイコンタクト (サイレント映画))

Week 10: Performance preparation/practice

(第10週 パフォーマンスの準備と練習)

Week 11: Performance 2 (Pechakucha Presentation)

(第11週 パフォーマンス2 (ペチャクチャ・プレゼンテーション))

Week 12: Drama: Readthrough

(第12週 ドラマ リーディング)

Week 13: Drama: Blocking

<p>(第13週 ドラマ ブロッキング)</p> <p>Week 14: Drama: Dress Rehearsal</p> <p>(第14週 ドラマ ドレスリハーサル)</p> <p>Week 15: Final Performance (Reader's Theater)</p> <p>(第15週 最終パフォーマンス (リーダーズシアター))</p>
<p>テキスト</p> <p>No textbook will be necessary for this course. Materials and handouts will be distributed through MS Teams. You may be asked to download and use other online educational tools. You must always bring materials, handouts, notepaper, pencils, and your device to each class.</p> <p>このコースでは教科書は必要ありません。教材や配布資料はMicrosoft Teamsで配布します。その他のオンライン教育ツールをダウンロードし、使用していただくこともあります。授業には必ず教材、プリント、メモ用紙、鉛筆、自分の端末を持参してください。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>Active Participation in class activities: 20%</p> <p>Homework/Scrapbook: 20%</p> <p>Performance 1: 15%</p> <p>Performance 2: 20%</p> <p>Final Performance: 25%</p> <p>授業への積極的な参加 : 20%</p> <p>宿題・スクラップブック 20%</p> <p>パフォーマンス1: 15%</p> <p>パフォーマンス2: 20%</p> <p>最終パフォーマンス: 25%</p>

授業科目名： CS: Presentation	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： ソフィ ミュレール 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>Class title: "Persuasive Presentation for Social Activism".</p> <p>In this class, you will learn to research a theme which has a personal impact on you AND a connection to the Sustainable Development Goals. You will also learn to prepare and deliver a presentation that will persuade people to take action. You will take action yourself to help improve the issue(s) connected to your topic.</p> <p>〔クラスのタイトル 「社会活動のための説得力のあるプレゼンテーション」〕</p> <p>この授業では、自分にとってインパクトがあり、かつ持続可能な開発目標に関連するテーマについてリサーチすることを学びます。この授業では、自分にとってインパクトがあり、かつ持続可能な開発目標に関連するテーマをリサーチし、人々に行動を起こすよう説得するプレゼンテーションの準備と実施方法を学びます。また、自分のテーマに関連する問題を改善するために、自らも行動を起こします。</p> <p>At the end of the semester, you should be able to: choose presentation topics that you find meaningful to be a global citizen; find meaningful information; support your main points with numbers, examples, and/or testimonies; organize your content in a persuasive way in order to convince people to take action; know how to take action in order to improve the situation of the topic you chose; create catchy titles; produce a clear visual; express your emotions using your voice and body; make natural eye contact.</p> <p>〔学期末には、「地球市民として意義のある発表テーマを選ぶこと」「意義のある情報を探すこと」「数字や事例、証言で要点を支えること」「行動を起こすよう説得力のある内容にまとめること」「選んだテーマの状況を改善するために、どう行動すればいいか知ること」「キャッチーなタイトルをつけること」「わかりやすいビジュアルを作ること」「声と体を使って感情を表すこと」「自然に目を合わせること」ができるようになるはずです。〕</p>			
<p>授業の概要</p> <p>You will learn most of the class content through flipped learning, that is watching</p>			

short class videos on the class website, and answering guiding questions to make sure you understand the content. In class, you will discuss the content of the flipped learning. You will then have the opportunity to ask questions to your teacher, before taking a short test. Thanks to flipped learning, you will have most of the class time to work in collaboration with your partner(s) to research your topic, discuss what you find, organize your content, take action, and create your final presentation. You will also regularly present your progress to your teacher and/or classmates, in order to practice your delivery skills and improve your confidence. All work has to be done using English.

授業内容のほとんどを反転学習で学びます。反転学習とは、授業のウェブサイトに掲載されている短い授業ビデオを視聴し、質問に答えて内容を理解するかどうかを確認する学習です。授業では、反転学習の内容について話し合います。その後、先生に質問をして、短いテストを受けます。反転学習のおかげで、授業時間のほとんどを、パートナーとの共同作業で、自分のトピックを調べ、見つけたことを話し合い、内容を整理し、行動を起こし、最終的なプレゼンテーションを作成する時間に充てることができます。また、定期的に先生やクラスメートに発表することで、発表の仕方を練習し、自信をつけます。すべての作業は英語で行う必要があります。

授業計画

WEEK 1:

- a) Class rules & getting to know one another;
- b) Class presentation: self-assessment, goals, flipped learning (what it is & practice). Flipped Learning for week 2: "Tip 1: Delivery, part 1: Expressing Emotions (voice & body language), part 2: Voice Use, part 3: Eye Contact, part 4: Pronunciation"

第1週

- クラスのルールとお互いを知ること
- 授業発表:自己評価、目標、反転学習(とは何か&実践方法)
- 2週目の反転学習。"コツ1:デリバリー、パート1:感情表現(声&ボディランゲージ)、パート2:声の使い方、パート3:アイコンタクト、パート4:発音"

WEEK 2:

- a) Review of "Good Group Discussion Skills"; b) Discussing Flipped Learning about Delivery & test #1;
- c) Portfolio presentation; d) Prepare & deliver a 2-minute presentation (no PowerPoint) about your favorite food and/or music;

e) Presentation topic: a theme or problem which has a direct impact on you, and a connection to the Sustainable Development Goals (SDGs); f) Introduction of examples of topics with a personal impact and their connections to the SDGs.

第2週

- "グループディスカッションの上手なやり方"のレビュー
- デリバリー&テストについて、反転学習を議論する #1
- ポートフォリオ発表会
- 好きな食べ物や音楽について、2分間のプレゼンテーション(パワーポイント不可)を作成し、発表する。
- 発表テーマ:自分自身に直接影響を与えるテーマや問題で、持続可能な開発目標 (SDGs)との関連性があるもの。
- 個人的にインパクトのあるトピックとSDGsとの関連性の事例紹介

WEEK 3:

Present your 3-minute presentation in front of the class. Flipped Learning for week 4: "Tip 2, Content, part 1: How to find good content? Give specific information from reliable sources"

第3週

- 3分間のプレゼンテーションをクラスの前で発表する。
- 第4週目の反転学習:「ヒント2・コンテンツ その1:良いコンテンツを見つけるには?信頼できる情報源から具体的な情報を提供する"

WEEK 4:

a) Discussing Flipped Learning + Test #2;

b) Group work: choose a theme or problem with a personal impact AND connected to the SDGs; Information Hunt #1. Flipped Learning for week 5: "Tip 2, Content, part 2: Presenting your content in a persuasive order: attention, need, connection, solution, action".

第4週

- 反転学習について話し合う+テストその2
- グループワーク:個人的にインパクトがあり、かつSDGsに関連するテーマや問題 を選ぶ。
- 情報探索その1
- 第5週目の反転学習。"ヒント2、コンテンツ、その2:説得力のある順序でコンテンツを提示する:注目、ニーズ、つながり、解決策、行動"

WEEK 5:

a) Discussing Flipped Learning + Test #3;

b) Group work: Information Hunt #2. Flipped Learning for week 6: “Tip 2, Content, part 3: How to keep your content organized with a Graphic Organizers (G.O)”.

第5週

- 反転学習について議論する+テスト第3回
- グループワークインフォメーションハント#2
- 第6週目の反転学習。"ヒント2、コンテンツ その3:グラフィック・オーガナイザー (G.O.)でコンテンツを整理する方法"

WEEK 6:

group work: a) Discuss information you found; b) Create a G.O.

第6週 - グループワーク。

- 見つけた情報についてのディスカッション
- G.O.を作成する。

WEEK 7:

a) With your partner, present your G.O.;

b) When you are not presenting: flipped Learning, “Tip 2, Content. Part 4: Why you should connect your content to your audience & The importance of finding solutions and taking action.” + group work: find specific pieces of information showing how your topic is connected to your audience & find solution(s). Homework for week 8: watch at least two TED talks on your presentation topic to get new piece(s) of information and solution(s).

第7週

- パートナーと共に、G.O.を提示する。
- プレゼンしていない時:反転学習 "コツ2、コンテンツ。第4回:コンテンツとオーディエンスを結びつけるべき理由&解決策を見つけ、行動することの重要性"
- グループワーク:自分のトピックとオーディエンスとの関係を示す具体的な情報を探し、解決策を見つける。
- 第8週目の宿題:自分のプレゼンテーションのトピックに関するTEDトークを2つ以上見て、新しい情報や解決策を得る。

WEEK 8:

a) Review Flipped Learning from week 7 with your partners + Test #4;

b) Group work: share information and solutions from the TED talks + select the most meaningful solution, and research it in detail + add information to G.O.

第8週

- 第7週目のFlipped Learningをパートナーと一緒に復習し、Test #4
- グループワーク:TEDトークの情報と解決策を共有し、最も有意義な解決策を選択し、詳しく調査する。G.O.に情報を追加する。

WEEK 9:

- a) With your partner, present your G.O.;
- b) When not presenting: flipped Learning “Tip 3, Creating a title for your presentation” + group work: discuss & create 2 or 3 titles. Flipped Learning for week 10: “Tip 4: How to get people’s attention? Your PowerPoint presentation.”

第9週

- パートナーと共に、G.O.を提示する。
- プレゼンしない時:反転学習 "コツ3、プレゼンのタイトルを作る"
- グループワーク:2~3個のタイトルを話し合って作る
- 第10週目の反転学習: "コツ4:人の注意を引くには?あなたのパワーポイントプレゼンテーション"

WEEK 10:

- a) Review Flipped Learning of week 9 & discuss the Flipped Learning for week 10 + Test #5;
- b) Discussion: “What makes a post powerful on SNS?”;
- c) Group work: take action, steps 1 & 2

第10週

- 第9週目の反転学習を復習し、第10週目の反転学習について議論する。テスト5を受ける。
- ディスカッションを行う。"SNSにおける投稿の威力とは?"
- グループワーク:行動を起こす、ステップ1&2

WEEK 11:

group work, take action, steps 3 & 4 + prepare your PowerPoint

第11週 - グループワーク。

- 行動を起こす、ステップ3&4
- パワーポイントを準備する

WEEK 12:

group work, take action, step 5 + continue preparing your PowerPoint

<p>第12週</p> <ul style="list-style-type: none"> - グループワーク。 - 行動する、ステップ5 - PowerPointの準備を続ける <p>WEEK 13:</p> <p>group work, finish preparing your PowerPoint (30 min) & presentation practice (60 min)</p> <p>第13週</p> <ul style="list-style-type: none"> - グループワーク。 - パワーポイントの準備完了(30分) - プレゼンテーション練習(60分) <p>WEEK 14:</p> <p>final presentation, part 1</p> <p>第14週: 最終発表会 - 第1部</p> <p>WEEK 15:</p> <p>final presentation, part 2</p> <p>第15週: 最終発表会 - 第2部</p>
<p>テキスト</p> <p>The material for the class will be provided by the teacher. (授業で使用する教材は、講師が用意します。)</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>Continuous assessment: 40%</p> <p>Tests: 20%</p> <p>Final presentation: 40%</p> <p>継続的に評価する: 40%</p> <p>テスト: 20%</p> <p>最終発表会: 40%</p>

授業科目名： CS: Presentation	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： リン ワン ジュン 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>In this class, you will learn to think critically about things surrounding you and express your observations and opinions clearly with good organization. We will use TED Talks in class to discuss important topics, understand and evaluate different presentation styles, and practice verbal and nonverbal communication skills. At the end of this course, you will be more organized in your thoughts, express more confidently, and use natural and fluent English in your presentations.</p> <p>この授業では、自分を取り巻く物事について批判的に考え、自分の観察や意見をうまく構成して明確に表現することを学びます。授業ではTED Talksを使って重要なトピックについて議論し、さまざまなプレゼンテーションスタイルを理解・評価し、言語的・非言語的コミュニケーションスキルを実践していきます。</p> <p>このコースの終わりには、自分の考えをより整理し、より自信を持って表現し、プレゼンテーションで自然で流暢な英語を使えるようになっていることでしょう。</p> <p>At the end of the course, you will be able to</p> <ul style="list-style-type: none"> - Be aware of different issues and solutions - Research deeply and organize your thoughts with support - Analyze information and evaluate - Communicate your ideas and opinions confidently even if others disagree with you - Use strategies to present with confidence <p>コース終了時には、以下のことができるようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 様々な問題と解決策を認識することができる - 深くリサーチし、自分の考えを整理することができる - 情報を分析し、評価する - 他の人が反対しても、自分のアイデアや意見を自信を持って伝えることができる - 自信を持ってプレゼンテーションするための戦略を用いる 			
<p>授業の概要</p> <p>This course aims to connect an issue to its solutions globally and university students'</p>			

actions to improve the problem. There will be two main presentations for you to prepare. Throughout the semester, we will build up your work together, and you will have group sub-presentations for your practice.

〔この講座では、ある問題とその解決策をグローバルに結びつけ、大学生が問題改善のため
に行動することを目的としています。準備するプレゼンは主に2回です。学期を通して、
一緒に作品を作り上げていき、実践のためのグループサブプレゼンテーションを行います。〕

授業計画

At the beginning of the semester, different topics will be presented for you to explore what topics you are interested in. Once you decide on your presentation topic (issue and solution), we will discover different strategies to build up academic and professional presentations together. Throughout the semester, we will watch a variety of presentation styles and evaluate if that would be a good fit for you or not. You will be exploring your style as well.

〔学期の始めには、様々なトピックが提示され、自分がどのようなトピックに興味があるのか
を探ることができます。プレゼンテーションのトピック（課題と解決策）が決まったら、学
術的かつ専門的なプレゼンテーションを構築するための様々な戦略を一緒に発見してい
きます。学期を通して、様々なプレゼンテーションのスタイルを見て、それが自分に合うか合
わないかを評価します。自分のスタイルも探っていくことになります。〕

Lesson 1: Introduction to the course

(第1回：コースの紹介)

Lesson 2: Observing social issues (Signposting and planning)

(第2回：社会問題の観察 (サインポストと計画性))

Lesson 3: Observing family issues (Using visual aid)

(第3回：家族問題の観察 (ビジュアルエイドの活用))

Lesson 4: Observing personal issues (Describing trends)

(第4回：個人的な問題の観察 (傾向の説明))

Lesson 5: Research & organize (Using cue cards)

(第5回：調査・整理 (キューカードの活用))

Lesson 6: Sub-presentations in groups for presentation 1

(第6回：グループでのサブプレゼンテーション)

Lesson 7: Reorganize and revise for presentation 1

(第7回：プレゼンテーションの再編成と修正)

Lesson 8: Presentation 1: Issue

(第8回：プレゼンテーション1：課題)

Lesson 9: Caring for ourselves (Engaging your audience)

(第9回：自分への思いやり (聴衆を巻き込む))

Lesson 10: Creativity in solving problems (Describing projections)

(第10回：問題解決のための創造性 (予測の記述))

Lesson 11: Evaluating solutions (Using words of emphasis)

(第11回：解決策を評価する (強調する言葉を使う))

Lesson 12: Research & organize

(第12回：調査・整理)

Lesson 13: Sub-presentations in groups for presentation 2

(第13回：グループでのサブプレゼンテーション)

Lesson 14: Reorganize and revise for presentation 2

(第14回：プレゼンテーションの再編成と修正)

Lesson 15: Presentation 2: Solutions

(第15回：プレゼンテーション2：解決策)

Lesson 16: Review and Feedback

(第16回：レビューとフィードバック)

テキスト

Materials will be provided by the instructor

(教材は講師が用意します。)

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

Class participation 30%

Homework assignments 20%

Sub presentations 20%

Two main presentations 30%

授業への参与 30%

宿題 20%

サブプレゼンテーション 20%

メインプレゼンテーション 30%

授業科目名： 情報リテラシー	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 渡邊 裕司, 宮原 一弘
			担当形態： 複数
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>コンピュータを用いて「情報」を扱うための知識・技能は、現代社会ではもちろんのこと、大学においても、専攻分野問わず不可欠なものとなっています。本授業では、その導入となる「情報リテラシー」の修得を目的とします。</p> <p>[学修到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学における学習/研究活動の道具として、コンピュータを使いこなすことができる。 ・ ネットワークの特性を理解し、コミュニケーションツールとして正しく活用できる。 ・ 自身の有する知識や調査研究の成果を、新たな情報として表現することができる。 ・ 情報を文書やプレゼンテーションによって、人に正しく伝えることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>コンピュータの操作や概念とともに情報リテラシーの基本を学習します。</p> <p>まず導入として、近年のインターネット社会で起こっているさまざまな状況を紹介し、ネットワーク社会への参画態度について考えてもらいます。電子メールやアカウントを始めとした本学における情報利用環境についても紹介します。</p> <p>続いて、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いた情報リテラシー実習を行います。具体的には、文書作成、データの集計、計算、グラフ描画、プレゼンテーションについての理解、スライド作成について、使用するソフトウェアの基礎的な利用法の確認から、発展、データ連携までを扱います。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、本学における情報利用環境</p> <p>第2回：ネットワークリテラシーとセキュリティ</p> <p>第3回：ワープロソフトによる文書作成</p> <p>第4回：レポートの書き方</p> <p>第5回：表計算ソフトによるデータ集計</p> <p>第6回：表計算ソフトによるグラフ作成とワープロソフトとの連携</p> <p>第7回：プレゼンテーションとスライド作成</p> <p>第8回：人に伝えるための情報づくり</p>			
テキスト			

書籍は使用しません。学務情報システム（LiveCampusU）を使用して資料を配付します。

参考書・参考資料等

奥村晴彦，森本尚之，改訂第4版 基礎からわかる情報リテラシー，技術評論社，2020

高橋佑磨，片山なつ，伝わるデザインの基本 増補改訂3版 よい資料を作るためのレイアウトのルール，2021

これらの他，必要に応じて各回の授業において紹介します。

学生に対する評価

各回の提出課題を総合的に判定し，「合・否」で成績評価を行います。小テストを実施する場合もあります。

授業科目名： データサイエンス・ リテラシー	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 三澤 哲也、山本 祐輔、 小川 泰弘、原田 峻平、 能勢 正仁、各務 和彦、 小山 聡
			担当形態： オムニバス
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>データサイエンスとは、統計学やAIなどの情報科学技術を用いてデータを分析し、実務や学術分野における様々な課題にアプローチする学問であり、デジタル化が進む現代社会において必須とされる分野である。本講義ではデータサイエンスにおけるリテラシーレベルの知識・技術を身に付けることを目標に、情報機器の操作課題も交えながらその導入的な内容について学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>まずデータサイエンスの背景や考え方の紹介、データ取得・管理および情報倫理などのデータリテラシーについて学ぶ。つづいて分析手法の入門的課題として、データの整理、回帰分析の基礎を学び、さらにベイズ推論、機械学習やAIなど、さらに進んだ関連話題について概観する。なおデータの整理、回帰分析においては、情報機器の活用としてEXCELによるデータ分析を紹介する。講義はデータサイエンス学部教員によるオムニバスでのオンデマンド方式で実施し、毎回、その内容理解度を確認するための小テストを行い、最終的にはそれらを総合して合・否を判定する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： データサイエンスとは何か？－その概観－（担当：三澤 哲也） （データサイエンスという学問の考え方、それが注目される背景）</p> <p>第2回： データ分析のための取得と管理（担当：山本 祐輔） （データの取得と保存、ビッグデータ管理・ネットからの情報入手）</p> <p>第3回： データサイエンスと情報倫理（担当：小川 泰弘） （データの適切な利用と情報倫理）</p> <p>第4回： データの整理（担当：原田 峻平） （ヒストグラム・箱ひげ・基本量指標、散布図、相関、EXCELによるデータ整理）</p> <p>第5回： データ間関係（担当：三澤 哲也） （回帰分析の考え方、単回帰分析、重回帰分析、EXCEL回帰分析）</p> <p>第6回： データ分析における注意（担当：能勢 正仁）</p>			

(相関と因果、観察と実験、標本調査)

第7回： ベイズ推論 (担当：各務 和彦)

(ベイズ定理の考え方、応用例)

第8回： 機械学習とAI概観 (担当：小山 聡)

(ニューラルネットワーク、機械学習)

テキスト

講義担当者から事前に配布・提示される資料を中心に講義する。

参考書・参考資料等

竹村彰通、他3名 共編、同、他12名 共著：

データサイエンス大系「データサイエンス入門」(第2版) 学術図書出版社、2021年

および、講義担当者から示される参考文献。

学生に対する評価

合・否の2段階評価を実施、毎回の小テストを総合して判定する。

授業科目名： 教育学概論2	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：原田信之
			担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1 教育の基本概念について、思想や立場、考え方の概略を把握し、その歴史性を踏まえながら説明することができる。</p> <p>2 個人と社会にとっての教育の役割、成長の過程に働きかける人間的・社会的環境について理解する。</p> <p>3 「教える」という教師の行為と「学ぶ」という子どもの行為の相互作用性について、人間形成の本質を捉えて説明することができる。</p>			
授業の概要			
<p>本授業では、教育の歴史や思想、関係論や方法論、原理や実践など、学校のみならず社会や家庭にもかかわる多様なテーマを包含する教育学の基本概念と今日における教育課題について、過去の歴史や教育家の思想を辿りながら学習を進めていく。</p>			
授業計画			
第1回 オリエンテーション：教育学への誘い			
第2回 教育の原理（社会構成主義に立つ教授＝学習論）			
第3回 欧米の教育の思想・理念：感覚主義的認識論			
第4回 教育の思想・理念：消極教育論			
第5回 課題「ルソーの注入教育批判論」			
第6回 教育と空間構成（学校・教室という空間の基本構造と歴史的変容）			
第7回 教育と時間構成（授業という時間の構成）			
第8回 欧米の教育改革の動向			
第9回 教育目的としての生きる力の育成			
第10回 学力と社会			
第11回 学力と家庭			
第12回 子どもとの関係形成論(1)：教育実践ビデオから生徒との関係性を読み解く			
第13回 子どもとの関係形成論(2)：まなざしと相互作用			
第14回 子どもとの関係形成論(3)：聴くという行為			
第15回 子どもとの関係形成論(4)：間主観性			
テキスト			

第1週のオリエンテーション時に資料冊子を配布する。

参考書・参考資料等

佐藤学『学校改革の哲学』東京大学出版会、2012年。原田信之『協同学習と汎用的能力の育成—持続可能性教育の基盤形成のために—』あいり出版、2016年。

学生に対する評価

授業中の小レポート（30%）、総括レポート（50%）、平素の参加状況（20%）から総合的に評価する。

授業科目名：教育史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：山田美香 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ</p> <p>教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標に関わる歴史を理解している。</p> <p>(1) 家族と社会による教育の歴史を理解している。</p> <p>(2) 近代教育制度の成立と展開を理解している。</p> <p>(3) 現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を歴史的に理解する。古代から近代の日本・アジア（中国・香港・マカオ、台湾）の教育を論じる。関連する書籍を読み、議論をする時間をとる。当時の史料を読む力を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：古代から近世の教育</p> <p>第2回：明治時代の教育—義塾、初期の小学</p> <p>第3回：アジア（日本の明治時代）の学校教育</p> <p>第4回：明治時代の教育—教育に関する法令</p> <p>第5回：明治時代の教育と他のアジア地域との比較</p> <p>第6回：大正時代の新しい小学校の設立—新しい教育思想</p> <p>第7回：アジアにおける新しい教育思想</p> <p>第8回：日本における軍事教育体制下の教育</p> <p>第9回：アジアにおける日本の植民地・占領地</p> <p>第10回：戦争孤児、引揚孤児</p> <p>第11回：日本におけるGHQの教育</p> <p>第12回：昭和20—30年代の教育</p> <p>第13回：1950—60年代アジアにおける教育</p>			

第14回：昭和40年代以降の教育

第15回：1970年代以降のアジアの教育

テキスト

授業に必要な資料を配布する。

参考書・参考資料等

吉田武男（監修）・平田諭治（編集）『日本教育史（MINERVAはじめて学ぶ教職 4）』ミネルヴァ書房、2019年

広岡義之・津田徹『はじめて学ぶ教育の制度と歴史』ミネルヴァ書房、2019年

学生に対する評価

授業の参加・リアクションペーパー40%、レポート60%

秀—日本教育史を理解し、アジアや現在の教育との関連で論じることができる。そこから新たな教育の流れを考えることができる。

優—日本教育史を理解し、アジアや現在の教育との関連で論じることができる。

良—日本やアジアの教育史を理解することができる。

可—日本教育史を理解することができる。

授業科目名： 教職概論 2	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：原田信之 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職の意義、教員の役割や職務内容等が幅広くかつ正確に理解できるようになる。 2. 教職に対する自己の適性をふまえ自らの進路を考えるとともに、教職のあり方や責務を理解する。 3. 専門職及び教育職として身に付けることが望ましい教師力について理解を深める。 			
授業の概要			
<p>・本講義は、教員が行う学校の仕事というテーマに迫り、教職についての理解を促し、どのような教師をめざすのかを考えることを重視する。教師とはどのような職業であり、社会的に何が求められているのか。また、どのような職業的養成をうけ、どのような専門性を身に付けることが求められているのかなど、教職に関する歴史や現状、内外の専門家等と連携・分担して対応することの必要性などについて理解することを目的とする。</p>			
授業計画			
第1回 オリエンテーション：教職への道			
第2回 教職とは何か：教員免許制度の概要			
第3回 職業としての教員のライフステージ：養成・採用・研修			
第4回 教師像の形成のために：DVD視聴			
第5回 映像教材から教師という仕事を考察・討論する			
第6回 教育指導の本質と意義			
第7回 授業力から考える教職			
第8回 教職の歴史と教員に求められる役割			
第9回 教員の職務			
第10回 初任研で何を学ぶか：DVD			
第11回 教員の職務実態と現代的課題			
第12回 チーム学校としての組織的対応			
第13回 専門家等との連携・分担のケーススタディ			
第14回 教育実習の理論と実践			
第15回 教職に関する総括グループ討論：進路探求として			
テキスト			

高妻紳二郎他著『教職議論（改訂版）』協同出版、2017年

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

講義中の小レポート（30%）、積極的かつ協力的な参加状況（20%）、総括レポート（50%）により評価する。

授業科目名： 教育制度論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 坂野 愛実
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>次の3点を学習到達目標とします。</p> <p>(1) 教育法制によりいかに個々人の成長発達が保障され、また公教育の実態として指摘される問題・課題を理解できるようになること。</p> <p>(2) 教育法制をより深く考察するために必要な情報を収集する方法とその活用の仕方を身につけること。</p> <p>(3) (1)(2)を踏まえ、自分の考えをまとめ、提示できるようになること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、教育法制によっていかに個々人の成長発達が保障されるのか、また、保障するためにはどのように法制度を整備する必要があるのか、ということを経営の実態から指摘されている問題・課題を通して理解するとともにグループワークやリアクションペーパーより自分の考えをさらに深めていくことを目的としています。</p> <p>具体的に取り扱うテーマは下記の授業計画に示されている通りですが、各授業のつながりとして、はじめに権利保障の根拠を日本国憲法と教育基本法で確認しながら、それが下位法においていかに具体化されているのか、またそれによる日本の教育実態が国際教育法および各国の教育実態と比較してどのように位置づけられるのかをテーマごとにみていきます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション － 「教育を受ける権利」 の社会権的側面と自由権的側面</p> <p>第2回：子どもの権利 － 子どもが抱える困難に向き合うための学校・地域・社会のあり方を考える</p> <p>第3回：教育の法と制度（1）－ 教育法のしくみ</p> <p>第4回：教育の法と制度（2）－ 学習指導要領の性格と教育内容の豊かさを求めて</p> <p>第5回：日本国憲法と教育基本法（1）－ 教育制度の歴史的転換とその意義</p> <p>第6回：日本国憲法と教育基本法（2）－ 2006年教育基本法の特徴</p> <p>第7回：教育の目的と目標 － 新教育基本法とどのように向き合うか</p> <p>第8回：学校の制度 － 法律に定められている学校とそれ以外の教育施設</p> <p>第9回：義務教育の制度 － すべての子どもの学びが保障される義務教育へ</p> <p>第10回：教育の機会均等（1）－ 義務教育段階の就学保障制度</p> <p>第11回：教育の機会均等（2）－ 義務教育修了後の教育機会の保障</p>			

<p>第12回：教職員の制度（1）－ 教員の地位と教育の自由およびそれを支える環境の整備</p> <p>第13回：教職員の制度（2）－ 子どもが学ぶ環境の安心・安全を確保するために</p> <p>第14回：教育行政の制度－ 関係機関との連携および住民参加による学びの豊かさの実現を目指して</p> <p>第15回：まとめ－ 教育法制が有する二面性を再び考える</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>特に使用しません。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>各授業では、レジュメおよび本内容に関連する資料を配布します。両プリントにおいて参考書・参考資料などをその都度、提示していきます。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>学期末試験（60%）、小レポート（25%）、平常点（15%）により評価を行います。小レポートに関しては、授業内容などを通して認識した問題とそれに対する自分の意見を3000字程度にまとめ、提出してもらいます。平常点は、学修態度としてリアクションペーパーで実施する「本日の課題」を通して、各時間の学習課題・内容を把握できているか、また、「感想・意見・質問など」を通して、それに対する自分の考えをわかりやすくまとめることができているかを確認します。</p>

授業科目名:教育社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名: 曾我 幸代
			担当形態: 単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業では子どもや若者が生きる持続不可能な社会現象および教育環境を批判的に捉えながら、教育の社会的意義について多角的に考えていくことを目指す。授業の到達目標は、以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)受講生自らの経験をふり返りながら、考えや思いなどを表現し、現代の教育社会の課題を批判的に捉えることができるようにする。 2)子どもや、若者の今を理解し、教育に関わる諸問題を複眼的に捉えられるようにする。 3)社会における学校の存在意義および教育の意義について、現代的な文脈の中で読み取り、自身の考えを持てるようにする。 			
<p>授業の概要</p> <p>持続可能な社会を構築する上で教育の重要性が改めて強調されるが、教育の功罪を問い直しながら、その理由を丁寧に読み解いていくことが求められる。教育は社会の発展のためにあるのか、それとも個人の成長や変容のためにあるのか、あるいはその両者のためであるのかについて考えていくため、さまざまな社会現象を取り上げ、より広い視野で事象を捉えるようにする。その上で社会と教育との関わりを改めて捉え直し、持続可能な教育社会についての考えを深めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション～私と学校～</p> <p>第2回 学校化された社会と子ども／若者</p> <p>第3回 不確実な時代における教育の問い直し～変容をもたらすESD～</p> <p>第4回 教育の功罪（1）西洋近代化</p> <p>第5回 教育の功罪（2）識字</p> <p>第6回 教育の功罪（3）学びと暮らし、仕事のつながり</p> <p>第7回 教育の功罪（4）近代学校教育</p> <p>第8回 教育の功罪（5）教育文化の問いなおし</p> <p>第9回 社会と教育との関わり（1）教育格差</p> <p>第10回 社会と教育との関わり（2）就活</p> <p>第11回 社会と教育との関わり（3）不登校とオルタナティブ・スクール</p>			

- 第12回 社会と教育との関わり（4）レジリエントな学校社会
第13回 社会と教育との関わり（5）ケアでつながる場づくり
第14回 持続可能な社会と「わたし」と教育
第15回 まとめ、最終課題レポート提出

テキスト

講義ごとに関連資料を配布する。

参考書・参考資料等

- ・日本ホリスティック教育協会（2006）『持続可能な教育社会をつくる：環境・開発・スピリチュアリティ』せせらぎ出版
- ・日本ホリスティック教育協会（2008）『持続可能な教育と文化：深化する環太平洋のESD』せせらぎ出版
- ・石戸教嗣編（2013）『新版 教育社会学を学ぶ人のために』世界思想社
- ・広田照幸（2009）『格差・秩序不安と教育』世織書房。
- ・本田由紀（2005）『多元化する「能力」と日本社会：ハイパー・メリトクラシー化のなかで』NTT出版。

また、講義ごとに関連文献を紹介する。

学生に対する評価

平常点20%、リアクションペーパー30%、グループ活動30%、課題レポート20%

授業科目名： 学校教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 久保田 健市、天谷 祐子、 神崎 奈奈
			担当形態： 複数・オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・教育全般の営みにかかわる心理学的諸問題に対する理解を深める。 ・3年次以降の教職関連実習や教育カウンセリングなどを学ぶ上での基礎的素養を養う。 ・現場の中で人間心理の諸法則を発見する力や、人間心理に基づく実践を展開する力を養う。 ・「教育に携わる者」としての基礎的素養を高める。 			
授業の概要			
<p>学校教育心理学では、学校教育を中心に、広く教育全般の営みにかかわる心理学的諸問題(発達、学習、社会、臨床、適応・障害、測定・評価など)を講義する。そして、3年次以降の教職関連実習や教育カウンセリングなどを学ぶ上での基礎的素養を養う。</p>			
授業計画			
<p>おおむね、以下のスケジュールに従い、講義を行う。講義の中で関連するワークショップを適宜行い、学習理解の助けとする。</p>			
第1週 オリエンテーション～現代社会と教育心理学 (久保田)			
第2週 発達と教育の関わり (久保田・天谷)			
第3週 人格の理論と人格的発達 (天谷)			
第4週 社会性の発達 (天谷)			
第5週 知的発達と知識の獲得過程 (神崎)			
第6週 学習指導 (神崎)			
第7週 協働学習 ～討論を用いた学習 (久保田・神崎)			
第8週 学習の動機づけ (神崎)			
第9週 教育評価 (久保田)			
第10週 教師-生徒関係 (久保田)			
第11週 学級集団発達 (久保田)			
第12週 生徒の心理的健康 (天谷)			
第13週 障害を持つ児童生徒の発達 (久保田)			
第14週 障害を持つ児童生徒の学習と支援 (久保田)			

第15週 問題行動の理解と指導 (久保田・天谷)

期末定期試験

受講生は、授業の予復習のために、各テーマごとに出されるワークシートに回答し、期日までに提出すること。

テキスト

『教育心理学』 西口利文・高村和代(編) ナカニシヤ出版

参考書・参考資料等

『学習心理学の最前線』 多鹿秀継(著) あいり出版

『よくわかる発達障害』 小野次郎・上野一彦・藤田継道(編) ミネルヴァ書房

『認知と思考-思考心理学の最前線』 多鹿 秀継(編) サイエンス社

『教師と教育集団の心理』 蘭 千尋・古城和敬(編) 対人行動学研究シリーズ2 誠信書房

『教師のパワー—児童・生徒理解の科学』 淵上克義(著) ナカニシヤ出版

『中学・高校教師になるための教育心理学(第4版)』 心理科学研究会(編) 有斐閣

『立体的・多角的に学べる 新教育心理学』 昇地三郎(監修) ナカニシヤ出版

学生に対する評価

成績評価は、期末定期試験および世復習課題の成績を総合して行う。

【予復習課題】(20%)

当該授業回および次回の授業において、キーワードとなる概念に関する問いを出題したり、自ら調べた事項やそれに基づく考えを問う。

【期末定期試験】(80%)

教育心理学の専門用語や基本的概念を使って、学校教育場面における事象を説明したり考察できる力を問う。

授業科目名： 特別支援教育2	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 櫻井 貴大
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>疑似体験を踏まえて、特別の支援を必要とする児童・生徒の学習・生活上の困難を理解し、特別の支援を必要とする子どもたちを支える教育のあり方を探究していく。具体的には、特別の支援を必要とする子どもたちや、その周囲の子どもたちへのかかわり方、教師のあり方、個別の支援計画の策定、ICT利活用の方法、海外の特別支援教育を理解することを目指す。</p> <p>到達目標は以下の3つである。</p> <p>(1) 特別の支援を必要とする児童および生徒の理解を理解する</p> <p>(2) 特別の支援を必要とする児童および生徒の教育課程及び支援の方法を理解する</p> <p>(3) 障害はないが特別の教育的ニーズのある児童および生徒の把握や支援を理解する</p>			
<p>授業の概要</p> <p>事例を踏まえながら、障害の特徴や指導法について学ぶ。また、疑似体験を通して、特別の支援を必要とする児童・生徒の困難感の理解を深めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：障害概念についての検討</p> <p>第3回：障害のある児童および生徒の理解1（知的障害）</p> <p>第4回：障害のある児童および生徒の理解2（発達障害、自閉症）</p> <p>第5回：障害のある児童および生徒の理解3（ADHD）</p> <p>第6回：障害のある児童および生徒の理解4（LD）</p> <p>第7回：配慮を要する児童および生徒の理解1（外国にルーツのある子ども）</p> <p>第8回：配慮を要する児童および生徒の理解2（子どもの貧困、LGBT）</p> <p>第9回：ここまでのまとめ（各種障害）</p> <p>第10回：特別支援教育の理念と仕組み（通級指導、自立活動）</p> <p>第11回：インクルーシブ教育システムとは（合理的配慮と基礎的環境整備）</p> <p>第12回：家族支援、きょうだい支援</p> <p>第13回：個別の指導計画及び個別の教育支援計画の意義と実践例</p> <p>第14回：海外の特別支援教育1（アメリカ、イギリス、韓国など）</p> <p>第15回：海外の特別支援教育2（日本の特別支援教育との比較）</p>			

テキスト

テキストは使用しない。資料等を配布する。

参考書・参考資料等

エピソードから読み解く 特別支援教育の実践 子ども理解と授業づくりのエッセンス 障害児の教授学研究会編 福村出版 新井 英靖、小川 英彦、櫻井 貴大、高橋 浩平、廣瀬 信雄、湯浅 恭正、吉田 茂孝 編著

内容に応じて授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

海外の特別支援教育発表 30点分、最終レポート 40点分、毎回の授業終了後に課すミニレポート 30点分に基づき、授業への取り組み等も含め、総合的に評価する。

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：原田信之 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 学校における教育課程編成の意義について、学習指導要領改訂の歴史や中央教育審議会答申（2017年）等もふまえて説明することができる。</p> <p>2. 教育課程編成や指導計画作成の基本原則や方法、カリキュラム・マネジメントについて確実に理解し説明をすることができる。</p>			
授業の概要			
<p>教育課程とは、学習者である生徒の知・徳・体にわたる豊かな発達を保証するために総合的に組織した教育計画である。この教育課程の編成にかかわる法制や基本原則、学習指導要領の変遷と各時代の背景、各学校をベースにしたカリキュラム・マネジメント等、教育課程編成の役割や機能についてとりあげる。総合的な学習の事例を通し指導計画のPDSについての理解が深められるようにする。</p>			
授業計画			
第1回：教育課程論ガイダンス：内容と方法の関連性			
第2回：教育課程編成の基本原則			
第3回：教育課程編成の基本法規			
第4回：教育課程の基準としての学習指導要領			
第5回：学校における教育課程編成のケーススタディ			
第6回：学習指導要領の変遷とその社会背景（戦後から教育の現代化まで）			
第7回：学習指導要領の変遷とその社会背景（教育の人間化から生きる力の育成の継続まで）			
第8回：中央教育審議会答申（2017年）から読み解く新学習指導要領の特徴(1)～基準改正の背景～			
第9回：中央教育審議会答申（2017年）から読み解く新学習指導要領の特徴(2)～現在の教育課題～			
第10回：学力とカリキュラム			
第11回：総合的な学習とカリキュラム			
第12回：総合的な学習を事例にした全体指導計画の作成			
第13回：総合的な学習を事例にした年間指導計画・単元指導計画の作成			
第14回：学校をベースにしたカリキュラム・マネジメント			
第15回：カリキュラム評価と授業改善			
テキスト			

『中学校学習指導要領解説・総則編』（平成30年3月 東山書房）を持参すること。

参考書・参考資料等

『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）、『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示 文部科学省）、原田信之編著『カリキュラム・マネジメントと授業の質保証』（北大路書房、2018年）

学生に対する評価

講義中の小レポート（記述カード）や参加状況（40%）、期末レポート（60%）により評価する。

授業科目名： 特別活動及び総合的な 学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田 孝 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習（探究）の時間の指導法 ・特別活動の指導法 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「特別活動」の教育的な意義はよりよい集団活動における自己の生かし方、在り方、生き方の総合的な心身の調和的な発達を目指すものであり、特色ある教育課程の核となるものである。「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」を目指す教育課程を中心とするものである。「総合的な学習（探究）の時間」は、「探究的な見方、考え方を働かせ」「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す」ものである。</p> <p>これは学校の持つ教育力を総合的にとらえることで、「横断的」「教科外領域」の役割を「特別活動」「総合的な学習（探究）の時間」として何をどう育てたらいいのかを現代社会の課題と共に考えていくことになる。具体的には学級活動、ホームルーム、生徒会、クラブ活動、学校行事（宿泊、体育的文化的行事）、「各教科等との関連性」を図りながら、生徒が集団の中で社会性を身につけるとともに、学校生活への意欲、「実社会・実生活の課題を探究する学び」を養うために何ができるかを考える。</p> <p>また、「特別活動」は日常の生徒指導と直結し、かつ人格を形成する活動であり、人間関係を知る体験的道德活動でもあるという教育的意義を理解し、各人が主体的に「特別活動」に取り組む力を養う。</p> <p>「総合的な学習（探究）の時間」は、「探究的な見方、考え方を働かせ」「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す」ものであることを理解し、模擬授業等の実践に取り組むことにより、授業を構成する力を養う。年間指導計画、単元計画の作成にも取り組む。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学生の体験発表を取り入れ、「総合的な学習の時間」についての実践的な検討を行う。</p> <p>また生徒の自治能力の育成、学級活動の在り方、地域に開かれた学校、保護者の支援を実践している全国の取り組みを学んでいく。その中で「特別活動」「総合的な学習（探究）の時間」は「教科を超えて必要となる資質・能力の育成」を行い、教科授業の基盤となり、同等の教育力があることに気づきその重要性を理解するためにグループ・ワークや模擬授業等の様々な講義形態に取り組む。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「学習指導要領」における「特別活動」「総合的な学習（探究）の時間」の位置付け</p>			

第2回：「特別活動」の歴史と教育的役割について

第3回：「総合的な学習（探究）の時間」の歴史と教育的役割について

第4回：道徳と「特別活動」・「総合的な学習（探究）の時間」の関連

第5回：学級づくり、学年づくり（学級組織・経営論）

「キャリア・パスポート」の理解と作成について

第6回：学校行事の理解について

宿泊的行事（集団的宿泊論と生徒の自主性）、儀式的行事 体育、学芸的行事の実践と課題

第7回：ジェンダー、共生、国際理解の実践と課題—「総合的な学習（探究）の時間」での実践—

第8回：エンカウンターの方法論と生徒理解の実践と課題

第9回：「総合的な学習（探究）の時間」の実践と課題

第10回：「総合的な学習（探究）の時間」の年間指導計画の作成

第11回：家庭、保護者の協力（連繋、協力、共催の方向を探り「チーム学校」の充実を目指す）

第12回：クラブ、部活動とは（部活と人間形成、部活の抱える今日的課題）

第13回：特色ある学校づくりとカリキュラム・評価の位置づけ

—特別活動・総合的な学習（探究）の時間—

第14回：現代の子どもとサブカルチャー問題、生徒指導論的把握

学校に必要な「文化」とは

第15回：「特別活動・総合的な学習（探究）の時間の今日的意義」

「特別活動・総合的な学習（探究）の時間」の評価課題の再考

定期試験

テキスト

『中学校学習指導要領解説 特別活動編』 文部科学省 東山書房 ISBN-13: 978-4827815627

『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』 文部科学省 東山書房 ISBN-13: 978-48278156

10

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 特別活動編』 文部科学省 東京書籍 ISBN-13: 978-44
87286355

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総合的な探究の時間編』 文部科学省 学校図書 ISBN-1
3: 978-4762505362

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

1. 積極的な授業への参加（25%）
2. 毎回の課題及び発表・プレゼンテーション（25%）
3. 定期試験・課題レポート（50%）

授業科目名： 教育方法論 2	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北島信子
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>教育の方法及び技術では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p>			
授業の概要			
<p>教育方法の基礎的な理論と指導方法について講義する。具体的には、教授論、教材・教具、教育評価、ICTの活用と課題について、実践事例をもとに提示する。授業は、テキストを使用せず、プリント資料で行う。事例の資料については、前週に次週以降の資料を配布する。毎授業時に、実践についての考察レポートを作成し、提出する。また、ディスカッション、グループワーク等を取り入れる予定である。</p>			
授業計画			
<p>原則、毎回次週の資料（実践事例等）を配布するので、その資料を必ず読んでくること（予習）。毎時の授業プリント・添削済みレポートを復習しておくこと（復習）。</p> <p>第1回：シラバスにもとづくガイダンス、教育方法とは</p> <p>第2回：授業づくりの基礎理論（1）近代の教授論</p> <p>第3回：授業づくりの基礎理論（2）子ども中心の授業づくり</p> <p>第4回：子ども理解と授業づくり</p> <p>第5回：学習指導要領と学力問題</p> <p>第6回：授業設計と指導方法（1）教育内容と教材・教具</p> <p>第7回：授業設計と指導方法（2）教科書研究</p> <p>第8回：授業設計と指導方法（3）学習形態</p> <p>第9回：授業設計と指導方法（4）発問の技法</p> <p>第10回：授業設計と指導方法（5）授業展開の方法</p> <p>第11回：教育評価の方法と課題</p> <p>第12回：授業づくりと学習環境</p> <p>第13回：情報リテラシー教育の指導方法</p> <p>第14回：授業におけるICTの活用と課題</p>			

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

使用しない。プリント資料で配布する。

参考書・参考資料等

文部科学省「中学校学習指導要領」（平成29年3月告示）

文部科学省「中学校学習指導要領解説・総則編」（平成29年7月）

文部科学省「高等学校学習指導要領」（平成30年3月告示）

文部科学省「高等学校学習指導要領解説・総則編」（平成30年7月）

学生に対する評価

授業内レポート（40%）、試験（60%）

授業科目名： ICT活用教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 宮原 一弘
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>GIGAスクール構想の進展とコロナ禍を契機として、教育現場でのICT活用が急速に進行している。本授業では、中学校、高等学校を念頭に置き、教育におけるICT活用の理論と方法を修得することを目的とする。特に、個別最適な学び、対話的な学びを確保することを意識した、ICTを活用した教育実践手法を身に付ける。</p> <p>[学修到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育におけるICT活用の意義と理論について理解している。 ・種々のICTツールを理解し、それらを活用した授業を設計、実践することができる。 ・情報活用能力、情報モラルの重要性を理解し、生徒に対して指導することができる。 ・校務におけるICT活用状況を理解するとともに、そこで扱われているデータへの留意点を理解している。 			
授業の概要			
<p>まず学校教育におけるICTの利活用について、歴史から現状までを知ってもらい、これからの教育におけるICT活用の意義を理解してもらおう。続いて、授業におけるICT活用について、各所での実践事例（特別の支援を必要とする場合を含む）を紹介するなどし、自身がどういった授業を行うべきかをイメージしてもらおう。実際に学校教育で利用されているオンライン授業のためのアプリケーションの特性や利用法を理解してもらい、模擬実践を行う。授業以外の校務でのICT活用にも触れ、昨今話題となっている教育データの利活用における留意点についても考えてもらおう。情報活用能力を育成させるための考え方、情報モラル、セキュリティについても触れていく。</p>			
授業計画			
第1回：学校教育におけるICT：意義、歴史と最新動向			
第2回：授業のためのICT活用：指導事例、特別支援におけるICT活用			
第3回：授業のためのICT活用：オンライン授業のためのツール			
第4回：授業のためのICT活用：オンライン授業の模擬実践1（リアルタイム）			
第5回：授業のためのICT活用：オンライン授業の模擬実践2（オンデマンド）			
第6回：校務のためのICT活用：校務の情報化と教育データの利活用			

第7回：情報活用能力の育成：生徒自身によるICT活用の醸成

第8回：情報活用能力の育成：情報モラル、セキュリティへの理解

テキスト

書籍は使用しない。適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示）

文部科学省『中学校学習指導要領解説・総則編』（平成29年7月）

文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説・総則編』（平成30年7月）

稲垣忠、佐藤和紀 編著『ICT活用の理論と実践 DX時代の教師をめざして』北大路書房（2021）

古賀毅、高橋優 編著『やさしく学ぶ教職課程 教育の方法・技術とICT』学文社（2022）

学生に対する評価

授業への参加貢献度20%、各回の課題40%、模擬実践40%

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 3単位	担当教員名： 山田 孝 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>生徒指導とは、「1人1人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動」とされる。</p> <p>さらに、学校生活への意欲、目的意識を教科外からどう育てるか、この基盤がないと生徒指導と進路指導は形骸化する。社会的体験から学ぶことが進路観を育て、生徒指導につながる。生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得するとともに共に、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育み、主体的に学習に取り組むことができる生徒を育てることができる教師でありたい。その前提は生徒との信頼と人間関係を作り上げること、これは同時に自らの生き方が問われることである。しかしその根底には、グローバリズムがもたらす世界、日本の社会の質的転換があり、その中での生徒指導、進路指導を問い直すことが教師に求められる最大の課題である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>講義は小集団、グループワークを中心に行う。教育、教師とは何かを学生が自ら深めながら、生徒の実態、問題を現代の社会との関わりについてディスカッションを中心に展開する。いわゆる知識伝達中心の講義でない、「主体的・対話的で深い学び」アクティブ・ラーニング授業を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学習指導要領における生徒指導・進路指導の位置づけ</p> <p>第2回：生徒指導・進路指導の意義 学校における生徒指導体制</p> <p>第3回：年間指導計画・校内分掌と生徒指導・進路指導</p> <p>第4回：授業改革と生徒指導（授業で生徒の内面を育てること）</p> <p>第5回：「いじめ防止対策推進法」を学ぶ 人権問題としての把握</p> <p>第6回：集団指導と個別指導、教育相談の役割</p> <p>第7回：不登校、いじめ、スマホ、ケイタイ問題への対応</p> <p>第8回：事例研究(1) 保護者、地域との連携、いじめ問題の歴史的背景</p> <p>第9回：事例研究(2) いじめ問題の構造、SNSによる不透明化</p> <p>第10回：事例研究(3) 校則、体罰、学校事故</p> <p>第11回：事例研究(4) 生徒指導上の法的諸問題と判例</p>			

<p>第12回：教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応</p> <p>第13回：進路指導とはなにか キャリア教育と進路指導</p> <p>第14回：進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携</p> <p>第15回：キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメント</p> <p>第16回：世界のキャリア教育（ドイツの職業教育を中心に）</p> <p>第17回：現場の教育課程とキャリア教育の接点</p> <p>第18回：総合的学習の時間と特別活動、道徳教育、教科横断的学校設定科目から生きる力を育てることと生徒指導・進路指導の関連</p> <p>第19回：現代の労働問題と進路指導</p> <p>第20回：生活習慣の養成と規範意識の醸成</p> <p>第21回：事例研究(1)中学生の進学・就職指導—生徒のキャリア形成とキャリアカウンセリング</p> <p>第22回：事例研究(2)高校生の進学・就職指導—生徒のキャリア形成とキャリアカウンセリング</p> <p>第23回：生徒指導・進路指導についての学生の報告</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』文部科学省 東山書房 ISBN-13: 978-4827815597</p> <p>『高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 総則編』 文部科学省 東洋館出版社 ISBN-13: 978-4491036397</p> <p>『生徒指導提要』 文部科学省 教育図書 ISBN-13: 978-4877302740</p> <p>『改訂版 生徒指導提要』（文部科学省のWebページで確認）</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜資料を配付する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教師への意欲（10%） 2. 幅広い知識と判断力（10%） 3. 社会的関心（10%） 4. ディスカッションへの参加（20%） 5. 課題レポート（50%）

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山中 亮 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 1. 教育相談に関わる基本的知識について、心理学的視点に基づいて説明することができるようになる。 2. 援助的コミュニケーションにおいてカウンセリングの基本的な技術を用いることができるようになる。 3. 教育相談の意義と課題について、説明することができるようになる。			
授業の概要 本授業では、教育相談活動を行うために必要な生徒の発達の特徴及び問題行動について論じるとともに、教育相談の実践に活用されるカウンセリングについての基本的考え方とその技法についてもあわせて論じる。			
授業計画 ●各回のテーマ 第1回 オリエンテーション・教育相談とは何か 第2回 思春期・青年期の発達課題 第3回 思春期・青年期の心理的問題 第4回 教育相談の基盤となるカウンセリングの考え方—来談者中心療法を中心に— 第5回 カウンセリングの実習 第6回 不登校問題の基本的理解（連携先となる地域の専門機関の理解を含む） 第7回 不登校問題への対応（地域の専門機関との連携の在り方を含む） 第8回 非行問題の基本的理解（連携先となる地域の専門機関の理解を含む） 第9回 非行問題への対応（地域の専門機関との連携の在り方を含む） 第10回 児童虐待問題の基本的理解（連携先となる地域の専門機関の理解を含む） 第11回 児童虐待問題への対応（地域の専門機関との連携の在り方を含む） 第12回 いじめ問題の基本的理解（連携先となる地域の専門機関の理解を含む） 第13回 いじめ問題への対応（地域の専門機関との連携の在り方を含む） 第14回 保護者との連携と対応 第15回 まとめ：教育相談の意義と課題 ●授業時間外の学習 新聞やニュースで取り上げられるさまざまな教育問題について疑問に感じたり、関心をもったりしたことを日頃から整理しておくこと。また授業で配布した資料および紹介した参考文献をもとに、毎回の学習内容を整理すること。			
テキスト 特に指定しない。必要な資料を配布する。			
参考書・参考資料等			

事例で学ぶ生徒指導・進路指導・教育相談 中学校・高等学校編』 長谷川啓三・佐藤公平・花田里欧子(編) 遠見書房

学生に対する評価

成績の評価は、講義で提出を求めるリアクションペーパーの提出状況及び記述内容(30%) レポートの成績(70%)に基づいて行う。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (中・高)	単位数：2単位	担当教員名： 梶浦真由美、佐久間紀佳、山田敦
科 目	教育実践に関する科目	
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1) <input type="radio"/> 学校現場の意見聴取(※2) <input type="radio"/>
受講者数	30名程度(英語10名、社会5名、理科10名、数学5名を想定している) (1クラスで実施)	
教員の連携・協力体制 梶浦真由美：統括、外部講師連携、英語科教育 佐久間紀佳：外部講師連携、理科・数学科教育 山田敦：外部講師連携、学内連携、社会科教育		
授業のテーマ及び到達目標 この授業は、履修者がこれまで教職課程の科目を学び、また教職課程外での様々な活動を通じて身につけた資質・能力が、教員として最小限必要な資質・能力としていかに有機的に統合・形成されたかについて最終的な確認を行い、将来、履修者が教員になる上で必要な課題を見つけ、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようにすることを目的とする。 到達目標は、以下の各項目である。 1. 教職に携わる人間としての使命感や責任感、教育的愛情、社会性、対人関係能力などを身につける。 2. 中学校教諭、高等学校教諭に必要とされる生徒理解や学級経営などについて学ぶ。 3. 教職に就くにあって解決すべき課題を見つけ、その課題を解決するための具体的方法を考え、実施することができる。 4. 以上を総括し、最終レポートにまとめて発表する。 5. 一人の人間として、教職に就く人間として、一回り大きく成長することができる。		
授業の概要 中学校および高等学校の教職課程履修生全員が教育実習を終える11月末に授業を開始する。毎週ミニレポートを作成して提出し、プレゼンテーションに向けて最終レポートを作成する。 授業は、まずオリエンテーションにおいて、1年次からのポートフォリオ(履修カルテ)に基づいた自己評価を行う。ついで、現職または退職教員より、教育活動や学級運営全般に関する専門的な講義を聞き、教職に携わる者として必要とされる使命感、責任感、教育的愛情などについて学ぶとともに、問題解決のための参考とする。最後に、中学校または高等学校での教育実習を振り返り、自分に欠けている知識や技術、教育実践を重ねてさらに深めたい分野・領域などを明らかにする。そうした学習や活動を基に最終レポートとしてまとめ、最後に模擬授業やプレゼンテーションを行い、それについての議論考察を行う。		

授業計画

- 第1回：オリエンテーション：本科目の意義；履修カルテに基づく自己評価（梶浦、佐久間、山田）
- 第2回：子どもの理解：保育者の立場から（梶浦）
- 第3回：学級経営－生徒理解上の課題と解決策（梶浦）
- 第4回：教師に求められる力（1）：社会人基礎力（佐久間）
- 第5回：教師に求められる力（2）：チームで働く力とコミュニケーション能力（佐久間）
- 第6回：保護者への対応について（1）：保護者の苦情や要望（山田）
- 第7回：保護者への対応について（2）：ロールプレイ（山田）
- 第8回：教員の資質能力の確認とまとめ（梶浦、佐久間、山田）
- 第9回：プレゼンテーションの準備：指導案について討論（梶浦、佐久間、山田）
- 第10回：模擬授業とプレゼンテーション、その考察（1：社会：地理総合、英語：オーラルイントロダクション、数学科：数と式、理科：物理分野）（梶浦、佐久間、山田）
- 第11回：模擬授業とプレゼンテーション、その考察（2：社会：地理探求、英語：文法指導、数学科：関数、理科：化学分野）（梶浦、佐久間、山田）
- 第12回：模擬授業とプレゼンテーション、その考察（3：社会：歴史総合、英語：コミュニケーション活動、数学科：図形、理科：生物分野）（梶浦、佐久間、山田）
- 第13回：模擬授業とプレゼンテーション、その考察（4：社会：日本史探求・世界史探求、英語：4技能統合型指導1、数学科：資料の活用、理科：地学分野）（梶浦、佐久間、山田）
- 第14回：模擬授業とプレゼンテーション、その考察（5：社会：公共、英語：4技能統合型指導2、数学科：数学的活動、理科：実験指導）（梶浦、佐久間、山田）
- 第15回：模擬授業とプレゼンテーション、その考察（6：社会：倫理・政治経済、英語：ICT活用、数学科：ICT活用、理科：ICT活用）と最終レポート提出（梶浦、佐久間、山田）

テキスト

教職課程履修において配布した各種資料と手引き

参考書・参考資料等

必要に応じてそのつど紹介する。

学生に対する評価

ミニレポート20%、最終レポート50%、プレゼンテーション30%

学習到達目標に基づき、以下の通り評価する。

秀：学習到達目標のすべてを高いレベルで達成することができた。

優：学習到達目標のすべてを十分に達成することができた。

良：学習到達目標のすべてを達成できた。

可：学習到達目標のいくつかにおいて低いレベルでしか達成できなかった。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。